1. 東京 2020 大会の正式名称

第 32 回オリンピック競技大会 (2020/東京) 東京 2020 パラリンピック競技大会

2. 東京 2020 大会の目的

2.1 大会ビジョン

東京 2020 大会の開催を担う公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会(以下「大会組織委員会」という。)は、2015年2月に国際オリンピック委員会、国際パラリンピック委員会に提出した「東京 2020 大会開催基本計画」において以下の大会ビジョンを掲げている。

スポーツには、世界と未来を変える力がある。 1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は、 「すべての人が自己ベストを目指し(全員が自己ベスト)」、 「一人ひとりが互いを認め合い(多様性と調和)」、 「そして、未来につなげよう(未来への継承)」を3つの基本コンセプトとし、 史上最もイノベーティブで、世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

2.2 都民ファーストでつくる「新しい東京」~2020年に向けた実行プラン~

東京都は、2016 年 12 月に策定した「2020 年に向けた実行プラン」において、「都民ファーストの 視点で3つのシティを実現し、新しい東京をつくる」ことを示している。また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会(以下「東京 2020 大会」という。)の成功に向けた取組を分野横断 的な政策の展開に位置付け、「東京 2020 大会の成功は、東京が持続可能な成長をしていくための梃 子であり、そして、ソフト・ハード面での確かなレガシーを次世代に継承していかなければならな い」としている。

東京 2020 大会実施段階環境アセスメント(以下「本アセスメント」という。)の実施にあたっては、適宜「2020 年に向けた実行プラン」を参照し進めていく。

都民FIRST(ファースト)の視点で、3つのシティを実現し、 新しい東京をつくる

東京 2020 大会の成功とその先の東京の未来への道筋を明瞭化

【計画期間】2017(平成29)年度~2020(平成32)年度

新しい東京

- ① 誰もが安心して暮らし、希望と活力を持てる東京
- ② 成長を生み続けるサステイナブルな東京
- ③ 日本の成長エンジンとして世界の中で輝く東京

セーフ シティ ダイバーシティ スマート シティ

図2.2-1 「2020年に向けた実行プラン」における3つのシティ

3. 東京 2020 大会の概要

3.1 大会の概要

大会組織委員会は、東京2020大会のオリンピック競技大会を当初は2020年7月24日から8月9日まで開催し、また、パラリンピック競技大会を8月25日から9月6日まで開催する予定としていたが、オリンピック競技大会を2021年7月23日から8月8日まで、パラリンピック競技大会を2021年8月24日から9月5日までとする新開催日程で実施した。

実施競技数は、オリンピック33競技、パラリンピック22競技である。

3.2 東京 2020 大会の環境配慮

大会組織委員会は、「東京 2020 大会開催基本計画 (2015 年 2 月策定)」の中で、東京 2020 大会は、単に 2021 年に東京で行われるスポーツの大会としてだけでなく、2021 年以降も含め、日本や世界全体に対し、スポーツ以外も含めた様々な分野でポジティブなレガシーを残す大会として成功させなければならないとし、「東京 2020 アクション&レガシープラン 2016 (2016 年 7 月策定)」において、街づくり・持続可能性に関する以下のレガシーとアクションを示した。

レガシー	アクション
「ユニバーサル社会の実現・ユニバーサルデ	競技施設、鉄道駅等のユニバーサルデザイン
ザインに配慮した街づくり」	の推進、アクセシブルな空間の創出等、ユニ
	バーサルデザインに配慮した街の実現
「魅力的で創造性を育む都市空間」	都市空間の賑わいの創出、公園・自然環境等
	の周辺施設との連携
「都市の賢いマネジメント」	ICTの活用、エリアマネジメント活動の活
	性化等
「安全・安心な都市の実現」	安全・安心のための危機管理体制の構築

表3.2-1 街づくりに関するレガシーとアクション

表3.2-2	持続可能性に関	するレガシー	とアクション
120.2	그 가게 가지 않는 나는 나는 나는 다른	7 0 0 11 2	_ , , , , , ,

レガシー	アクション
「持続可能な低炭素・脱炭素都市の実現」	気候変動対策の推進、再生可能エネルギーな
	ど持続可能な低炭素・脱炭素エネルギーの確
	保
「持続可能な資源利用の実現」	資源管理・3Rの推進
「水・緑・生物多様性に配慮した快適な都市	生物多様性に配慮した都市環境づくりや大
環境の実現」	会に向けた暑さ対策の推進
「人権・労働慣行等に配慮した社会の実現」	調達等における人権・労働慣行等に配慮した
	取組の推進
「持続可能な社会に向けた参加・協働」	環境、持続可能性に対する意識の向上、参加
	に向けた情報発信・エンゲージメントの推進

また、大会組織委員会は、東京 2020 大会を持続可能性に配慮した大会とするため、大会関係者の拠り所となる「持続可能性に配慮した運営計画 第一版 (2017 年 1 月)」を策定した。本運営計画において、東京 2020 大会が取り組む持続可能性に関する主要テーマを、「気候変動(カーボンマネジメント)」「資源管理」「大気・水・緑・生物多様性等」「人権・労働・公正な事業慣行等への配慮」「参加・協働、情報発信(エンゲージメント)」の5つとしている。

2018 年 6 月には、「持続可能性に配慮した運営計画 第二版」を策定し、持続可能性に配慮した 競技大会を目指す意義として SDGs への貢献を明確化している。「持続可能性に配慮した運営計画 第二版」の基本的な考え方は、表 3.2-3 に示すとおりである。

表 3.2-3 「持続可能性に配慮した運営計画 第二版」の基本的な考え方

基本理念	・世界最大規模のスポーツイベントであるオリンピック・パラリンピ
	ックは世界規模の影響
	・東京 2020 大会は、大会の準備運営に持続可能性を組み込み、その責
	任を果たすことで貢献
	・大会の持続可能性のコンセプト「be better, together / より良い
	未来へ、ともに進もう。」
持続可能性の主	持続可能性の5つの主要テーマは、環境・経済・社会の側面に統合的
要テーマ	に取り組むことから、SDGs の目標等の全体に幅広く関連
関係組織	組織委員会を核として、都、国、関係自治体、スポンサー等との連携
	の下に実施
運営計画の適用	主体として直接管理する範囲に加え、影響を及ぼすことができる範囲
範囲	についても考慮
持続可能な発展	持続可能性における基本的な価値観である4つの統治原則(持続可能
の統治原則	性への責任、包摂性/利害関係者の参画、誠実性、透明性)を尊重
マネジメントの	取組を確実に実施するため、イベントの持続可能性をサポートするた
仕組み、ツール	めの国際規格である ISO20121 の導入や「持続可能性に配慮した調達コ
	ード」の策定・運用等を推進

4.1 目 的

本事業は、昭和15年の開苑以来、馬術競技会場及び公園的施設として利用されている馬事公苑について、所有者である日本中央競馬会が、老朽化した施設の更新を検討していたところ、平成27年2月のIOC理事会において東京2020大会の馬術競技会場(クロスカントリーを除く)として馬事公苑の利用が決定したことを受け整備を行った。なお、馬事公苑の現有施設の多くは、1964年東京オリンピックの馬場馬術競技会場として利用した際に設置されたものであり、現在の馬術競技会場の国際基準に合致していないことから、施設の全面的な改修整備を行った。

また、東京2020大会後は、日本の馬事振興、馬術普及の拠点として活用するとともに、都民の 憩いの場となる馬と触れ合う公園的施設として、引き続き日本中央競馬会が運営していくことと している。

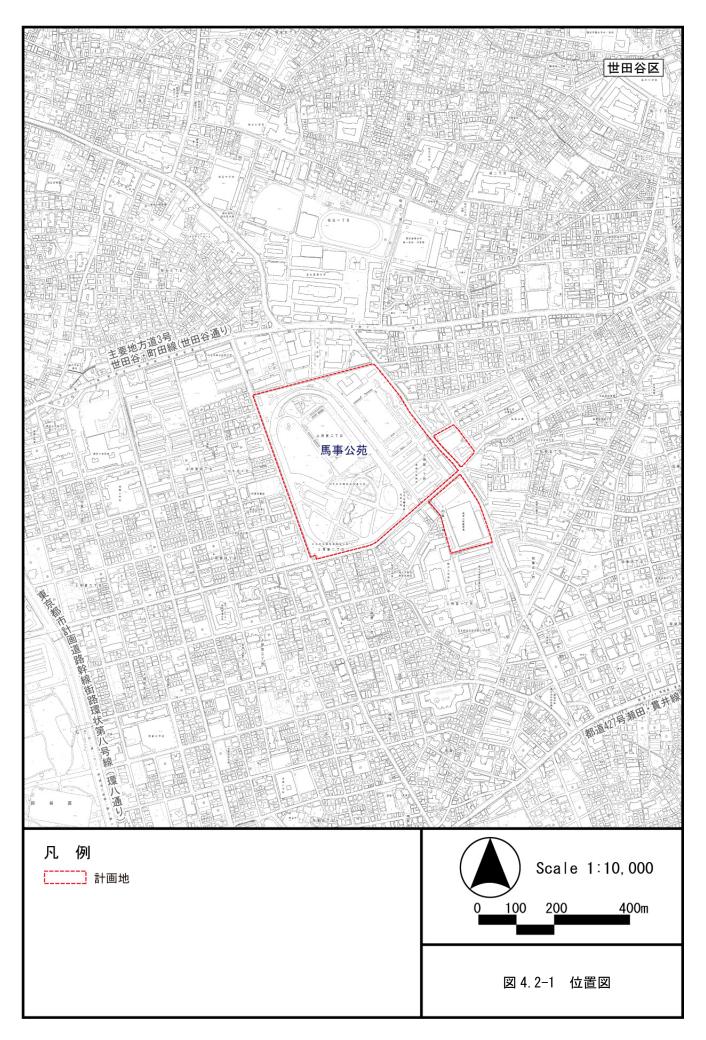
なお、恒久施設としての改修整備は、現況施設の解体工事後、東京2020大会に向けて実施する 第1期工事、東京2020大会後に実施する第2期工事により実施した。このうち、第2期工事については、東京2020大会を目的としたものではなく、日本中央競馬会が独自に実施する事業である。 また、東京2020大会における仮設施設として、組織委員会が施設所有者である日本中央競馬会より、馬事公苑の一部を一時的に借り受け、馬術競技会場(クロスカントリーを除く)としての必要な整備を行った。

恒久施設改修に係る環境影響評価は、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 実施段階環境影響評価書(馬事公苑)」(平成28年12月 東京都)及び「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 実施段階環境影響評価書(馬事公苑(その2))」(平成29年8月 東京都)として実施しており、仮設施設整備に係る環境影響評価は、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 実施段階環境影響評価書(馬事公苑(仮設施設))」(平成30年9月 東京都)として実施した。

4.2 内容

4.2.1 位 置

評価書の対象となる本事業を実施する範囲(以下「計画地」という。)の位置は、図4.2-1及び写真4.2-1に示すとおり東京都世田谷区上用賀一丁目1他、東京都世田谷区上用賀二丁目1-1他にあり、敷地面積は約191,000m²である。





4.2.2 事業の基本構想 (恒久施設)

本事業により、老朽化した施設を更新するとともに、国際基準に適合した馬術競技会場を整備することにより、引き続き、現在の馬事公苑の役割である馬事振興と馬術普及の拠点として以下のとおり活用を図る。

- ・日本の馬術競技会場の拠点として、ワールドクラスの競技大会を含めた国内外の競技会場 として利用することにより馬術普及を推進する。
- ・日本の馬事振興の拠点として、馬事振興に必要な優れた指導者及び技術者の養成並びに馬 事振興に用いる各種用途の馬や教育・訓練に用いる乗馬の調教等の人馬の養成に活用する。
- ・都民のための公園的施設として、馬との触れ合い、緑豊かな憩いの場を創出する。
- ・発災時における周辺住民の避難場所として、安全に配慮した整備を行う。

4.2.3 事業の基本計画(恒久施設)

(1) 配置計画

馬事公苑の恒久施設の概要は、表 4. 2-1 に、配置図及びイメージ図は、図 4. 2-2~図 4. 2-3 に示すとおりである。

恒久施設 1 期工事の主な建築物は、北エリアにメインオフィス、インドアアリーナ、管理センター、審判棟、厩舎 $(A-1\sim A-6)$ 、厩舎 (B-7)、南エリアに事務・JRA 職員寮、厩舎 (D-s2) を整備した。主な建築物の概要は、表 4.2-2(1) 及び(2) に、断面図は、図 $4.2-4(1)\sim(8)$ に示すとおりである。

	項	目		内 容
建	築	面	積	約 29,520m² (2 期工事分を含む)、約 24,010m² (2 期工事分を除く)
延	床	面	積	約 41,380m² (2期工事分を含む)、約 35,320m² (2期工事分を除く)
最	高	高	さ	約 18.0m
主	要	用	途	馬術競技関連施設
駐	車	台	数	北エリア約 100 台、南エリア約 15 台、公和寮エリア約 150 台
工具	工事予定期間 2016 年度~2023 年度			
竣	エ	時	期	2023 年度

表 4.2-1 日本中央競馬会が実施する恒久施設改修整備の概要

- 注1)日本中央競馬会へのヒヤリングに基づき作成。
 - 2) 工事予定期間は、解体工事、東京 2020 大会前の第1期工事、大会後の第2期工事を含む期間。
 - 3)組織委員会が実施する仮設施設の概要は、「4.2.4事業の基本計画(仮設施設)」に示す(p.20参照)。

表4.2-2(1) 主な北エリアの建築物の概要(恒久施設 1期工事)

	項	目		メイン オフィス	インドア アリーナ	管理 センター	審判棟	厩舎 (A-1~A-6)	厩舎 (B-7)
建	築	面	積	約 2,970m²	約 6,340m²	約 2,600m ²	約 230m²	約 1, 190m²	約 1,670m ²
延	床	面	積	約 6,740m²	約8,670m²	約 6,060m²	約 360m²	約 1, 190m²	約 1,670m ²
最	高	高	さ	約 18.0m	約 18.0m	約 18.0m	約 9.5m	約 7.4m	約 8.0m
階			数	地上3階	地上3階	地上3階	地上2階	地上1階	地上1階
構			造	S造	S造、RC造	S造	S造	RC造、S造	RC 造、S 造
用			途	事務所、物販店舗、飲食店舗	スポーツの練 習場、観覧 場、自動車車 庫	事務所	事務所	畜舎	畜舎

表4.2-2(2) 主な南エリアの建築物の概要(恒久施設 1期工事)

	項	目		事務・ JRA 職員寮	厩舎 (D-s2)
建	築	面	積	約 600m²	約 1, 250m²
延	床	面	積	約 1,560m ²	約1,800m ²
最	高	高	な	約 15.0m	約 10.0m
階			数	地上3階	地上2階
構			造	S造	RC 造、S 造
用			途	事務所、寄宿舎	畜舎、事務所

図 4. 2-2(1) 配置図 (事業実施前)

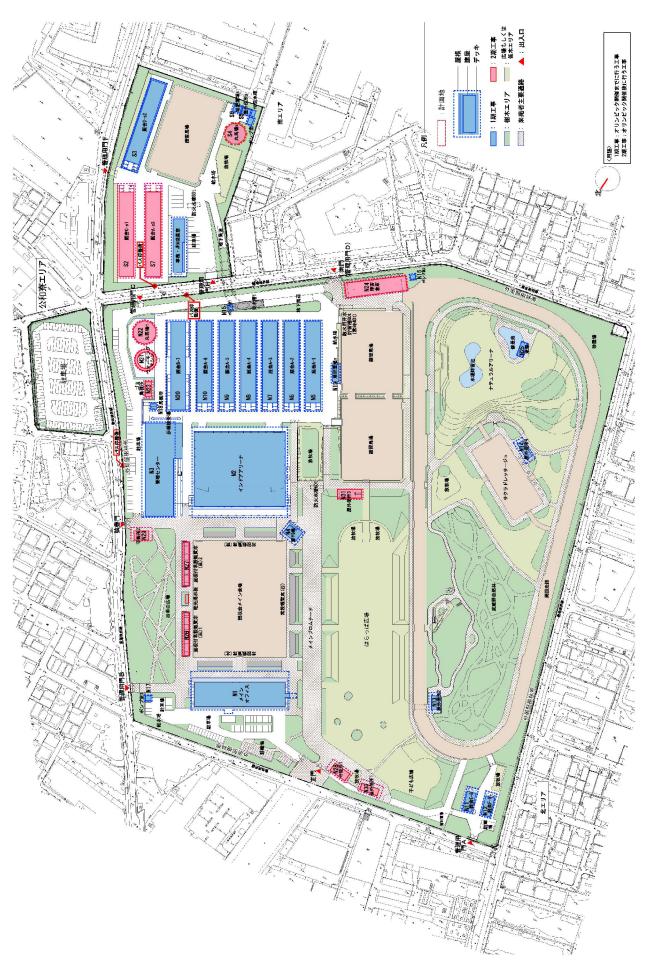
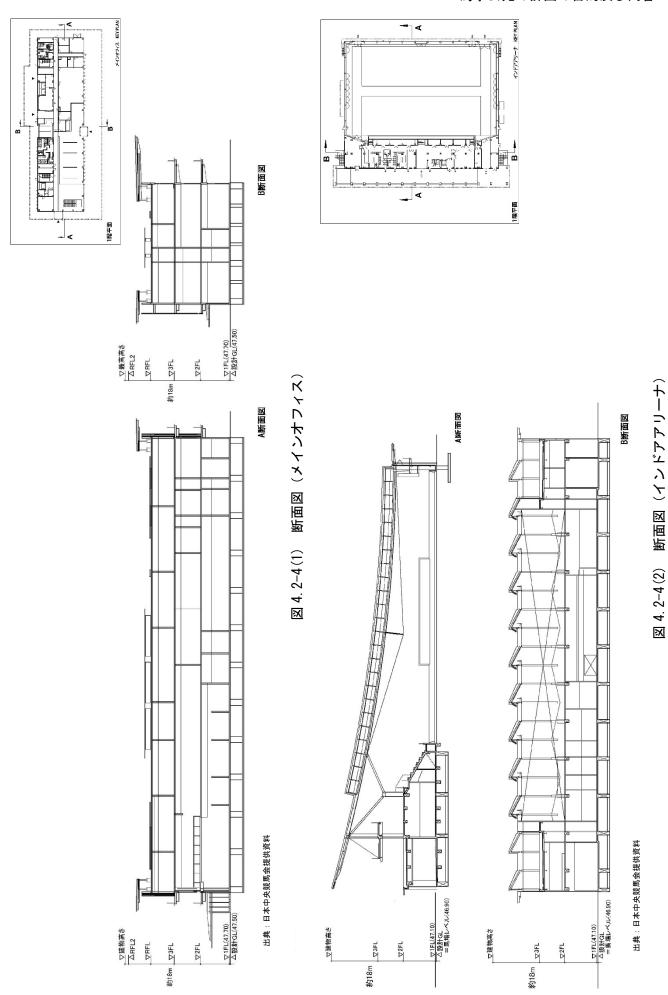




図4.2-3(1) イメージ図(計画地南西から)



図4.2-3(2) イメージ図 (計画地北から)



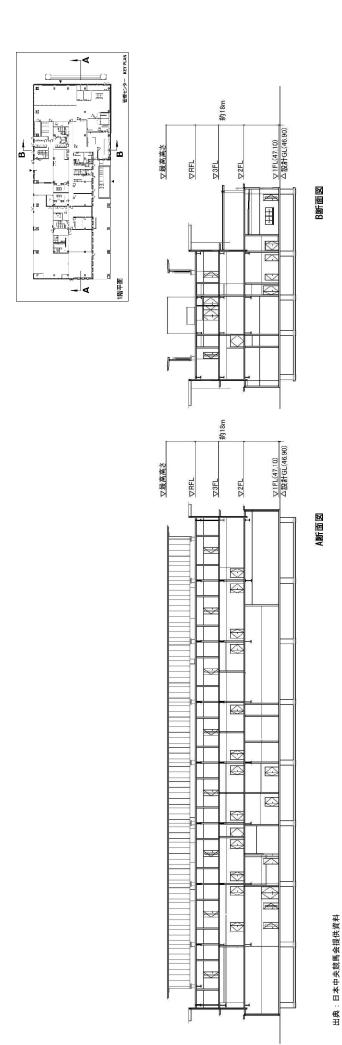
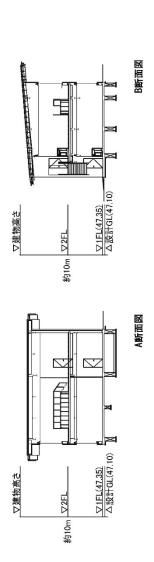
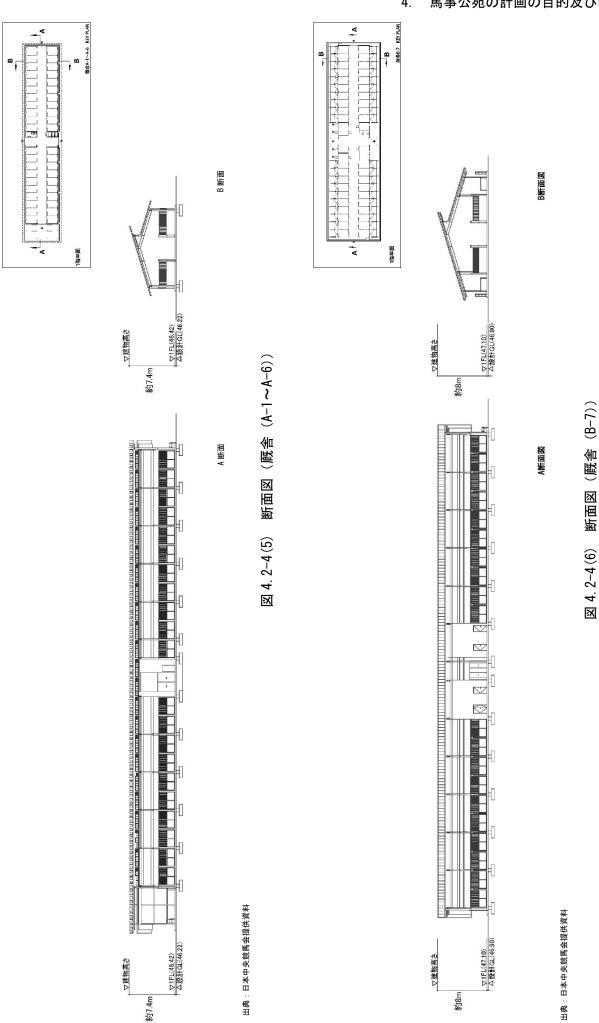


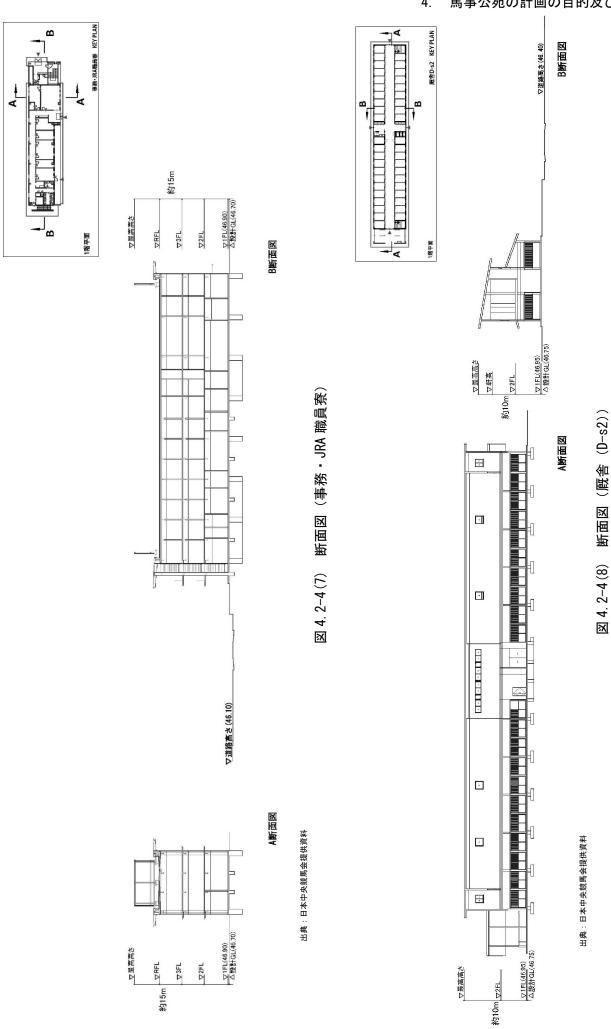
図 4. 2-4(3) 断面図(管理センター)



出典:日本中央競馬会提供資料

図 4.2-4(4) 断面図 (審判棟)





(2) 発生集中交通量及び自動車動線計画

施設共用後、馬事公苑に出入りする発生集中交通量及び自動車動線計画については、これまで 同様、日本の馬事振興、馬術普及の拠点として活用するとともに、都民の憩いの場となる馬と触 れ合う公園的施設として、引き続き、日本中央競馬会が運営し、従前と変わりはない。

(3) 駐車場計画

自動車駐車場は、図 4.2-2(2)に示すとおり、計画地の北エリアの北側及び東側に約 100 台、南エリアに約 15 台、公和寮エリアに約 150 台の平面駐車場を整備した。

(4) 歩行者動線計画

計画地周辺の鉄道駅から計画地及び施設周辺における歩行者の出入動線は、図 4.2-5 に示すとおりである。

計画地周辺の鉄道駅は、千歳船橋駅及び経堂駅(小田急小田原線)、桜新町駅及び用賀駅(東急田園都市線)、上町駅(東急世田谷線)がある。

また、計画地周辺の主なバス停としては、競走馬総合研究所、覆馬場、馬事公苑前駐在所、上 用賀四丁目、用賀公団前、桜ヶ丘三丁目及び農大前がある。

(5) 設備計画

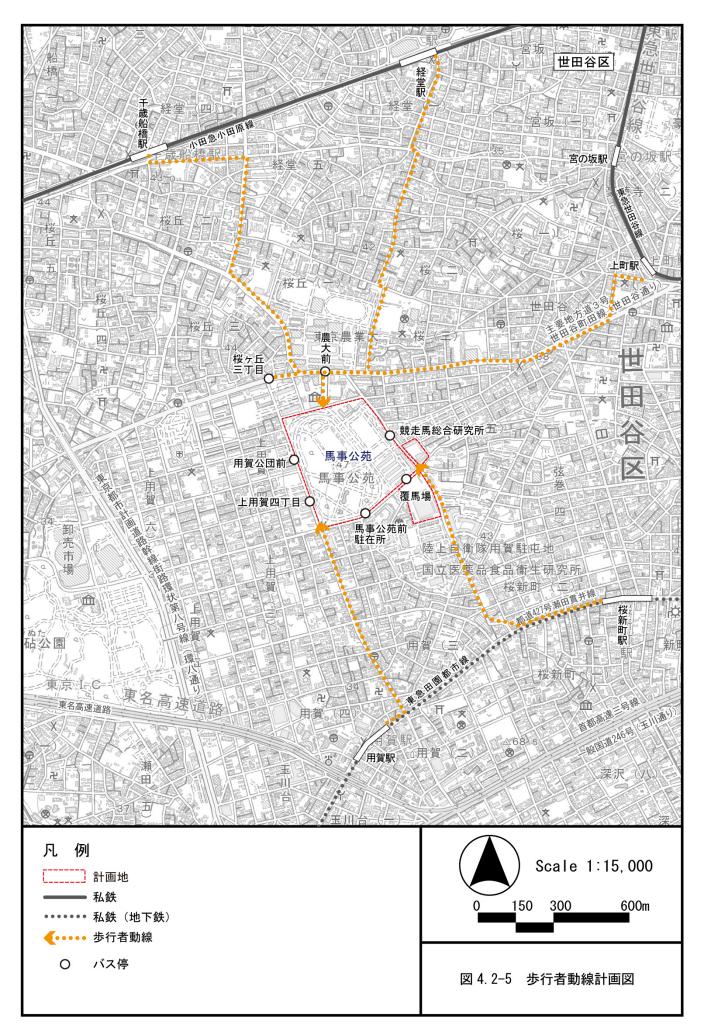
上水給水設備は、北エリア南側水道本管より、北エリア及び南エリアにそれぞれ引き込み、排水は、公共下水道へ放流する。また、事業実施前と同様に馬場散水には井水を上水と併用して利用する。施設の改修整備に伴い既存井戸を移設し、施設全体としての揚水量は事業実施前と同等程度としている。

電力は、高圧変電設備から供給する。また、電気使用量削減のため、空調設備機器や換気設備機器への高効率機器の採用、全熱交換器の採用、個別に運転・温度管理が可能な個別パッケージ型の個別分散方式の採用を行った。

(6) 廃棄物処理計画等

工事の完了後に発生する一般廃棄物については、東京都廃棄物条例(平成4年東京都条例第140号)、世田谷区清掃・リサイクル条例(平成11年世田谷区条例第52号)等を踏まえて、関係者への啓発活動によりその排出量の抑制に努めるとともに、分別回収を行い、資源の有効利用と廃棄物の減量化を図るほか、産業廃棄物については、専門業者による適正処理を行う。

また、使用済み敷料の臭気対策については、一時集積にあたって、配置箇所の工夫や集積所を新たに建物構造とするなど、周辺への影響をできる限り小さくするための配慮を行った。



(7) 緑化計画

緑化については、図 4.2-6 に示すとおりであり、世田谷区みどりの基本条例(平成 17 年世田谷区条例第 13 号)における緑化基準をそれぞれの敷地(北エリア、南エリア、公和寮エリア)で満たし、従前の緑化面積を上回る、約 85, 640m²(北エリアで約 79, 410m²、南エリアで約 5, 370m²、公和寮エリアで約 860m²)とした。

計画地内には、クヌギやコナラの落葉広葉樹を主体とした武蔵野自然林や常緑針葉樹、常緑広葉樹の広がる外周部樹林帯を始めとした規模の大きな樹林帯が整備されているほか、放牧場、ドレッサージュアリーナ、日本庭園等には大径木が植栽されている。また、お花畑、ウメ広場、サクラ広場、メインアリーナやグラスアリーナ周辺のフジ等の四季を楽しめる広場等が苑内に点在して整備されている。

緑化計画は、樹木医等の専門家の意見を参考にしながら、将来を見据えた適切な緑環境整備を行うことで、これまで同様、緑に親しめる公苑整備計画としている。武蔵野自然林や外周部樹林帯は、保全エリアとして樹木保全を基本とし、倒木の危険があるものや適切な育成環境を保全するために生育状況に問題のある樹木の間引きを行った。外周部樹林帯は、高木の間引き等に伴い外周部の緑が途切れてしまう箇所には高木を補植し、外周部からアイレベルで視線を遮り、周辺に配慮した樹林地を形成した。また、苑内側から見た林縁部の足元に四季の演出のための低木を連続して植栽し、四季を感じられる樹林地としている。

苑内についてははらっぱ広場、ナチュラルアリーナ、サクラドレッサージュ等の既存樹木を広く残存し、一部の樹木は移植を行いつつ、新植樹木を配植して緑量を確保している。正門付近では、馬事公苑の歴史と風格を感じられるよう既存の大径木を保存し、メインプロムナードではサクラ並木のプロムナードとするほか、放牧場の大径木を保存した。また、はらっぱ広場の大径木の保全、サクラドレッサージュでは木陰をつくるケヤキの保全及び苑内のサクラを移植し、馬とサクラによる風景を形成するほか、池や地形の起伏を活かした広々としたナチュラルアリーナでは、特徴的なヒマラヤスギ群を保全している。

また、苑内で親しまれてきたお花畑やウメ、サクラ、メインアリーナやグラスアリーナ周辺のフジ等については、人の回遊性が無く分節されていたため、一年を通じて見どころのある広場とする四季の広場として集約し、季節の移ろいや緑の厚み・豊かさを感じられる日本的な空間を整備した。そのほか、正門から近く利便性の高い位置にはらっぱ広場・子ども広場として拡がりのある大きな草地の広場を設けることで、馬と人にとってフレキシブルな空間とするほか、避難場所の機能としても活用できるように、緑空間を整備している。はらっぱ広場では、これまで以上に「せたがや区民まつり」等のイベント等の開催がしやすく、日常的に利用できる緑の憩いの広場空間とし、子ども広場では、見通しの良いゾーンに子ども向け遊具を設置することで子どもの安全性を高めた広場を創出している。また、サクラドレッサージュでは、馬術、乗馬訓練用として利用する馬場の周辺に、木陰をつくるケヤキや移植及び新植によるサクラ等の樹木を配置することで、馬とサクラの風景を創出している。総合馬術のクロスカントリーコースの一部として利用するナチュラルアリーナでは、既存のヒマラヤスギ群等を生かした木陰や、新たに水濠や観戦スポットを設置するほか、南側の池には東屋を設置し、水生植物が生育する修景池としている。なお、緑化工事は、今後、2023 年秋までの2期工事において完了する予定である。



4.2.4 事業の基本計画(仮設施設)

大会時の配置計画のイメージ図は、図 4.2-7 及び図 4.2-8 に示すとおりである。競技エリアとなるメインアリーナの周囲に仮設施設である観客席及び照明塔を整備した。照明塔は、メインアリーナの周囲に独立柱型照明塔を4本、観客席(東)及び観客席(西)に観客席取付照明塔を合計4本設置している。また、大会の運営のため、日本中央競馬会が整備している恒久施設を活用するほか、観客、アスリートやメディア関係等の施設として、敷地内のオープンスペースにプレハブやテント等の仮設施設を配置した。

主な仮設施設の概要は、表 4.2-3(1)及び(2)に、断面図及び側面図は、図 4.2-9(1)及び(2)に示すとおりである。

また、大会時の駐車場は、公和寮エリア等に大会関係者用の駐車場を配置した。

なお、東京 2020 大会に向けて日本中央競馬会が実施する恒久施設の改修整備に並行して、組織委員会が仮設施設の整備を実施した。

				双1.20(1) 工			
	項	目		観客席(東)	観客席(西)	観客席(南)	観客席(北)
建	築	面	積	約3,140m ²	約3,130m²	約 650m²	約 560m²
延	床	面	積	約7,410m ²	約7,580m²	約 650m²	約 560m²
最	高	高	さ	約 22.0m	約 22.0m	約 5.3m	約 5.3m
階			数	地上2階	地上2階	地上1階	地上1階
構			造	鉄骨造他	鉄骨造他	支保工システム	支保工システム

表4.2-3(1) 主な仮設施設(観客席)の概要

表4.2-3(2) 主な仮設施設(独立柱型照明塔)の概要

	項	目		照明塔
最	高	高	さ	約 35.2m
構			造	鉄柱

注1)最高高さは、建築物としての最高高さを示す。

²⁾ 支保エシステムとは、支柱等により荷重を支える構造物である。なお、観客席(東)及び観客席(西)は、鉄骨造のほか、一部支保エシステムを採用する。

³⁾ 上記の仮設施設は、建築基準法及び消防法に基づく基準を満足する。

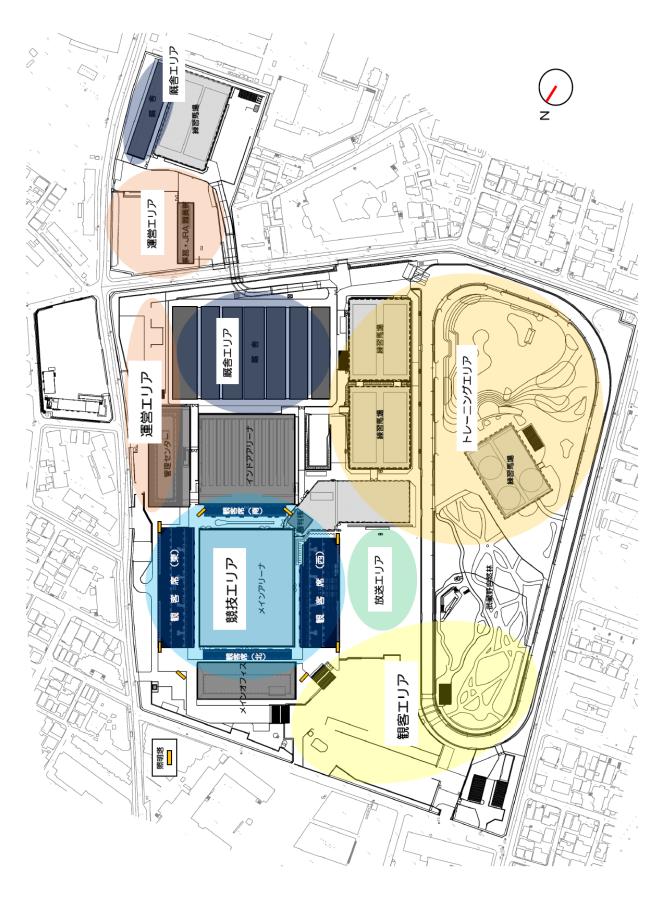




図 4.2-8 イメージ図 (計画地北西から)

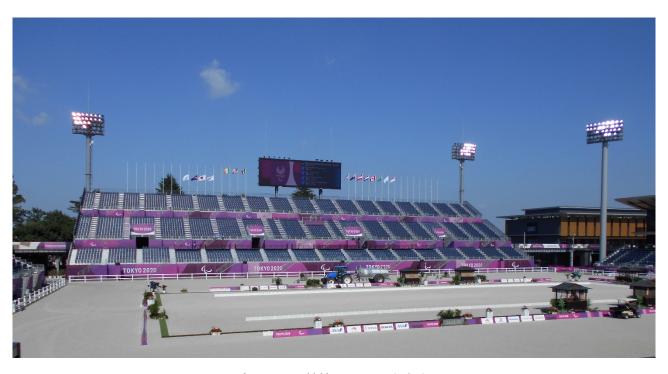


写真 4.2-2 競技エリア (大会中)

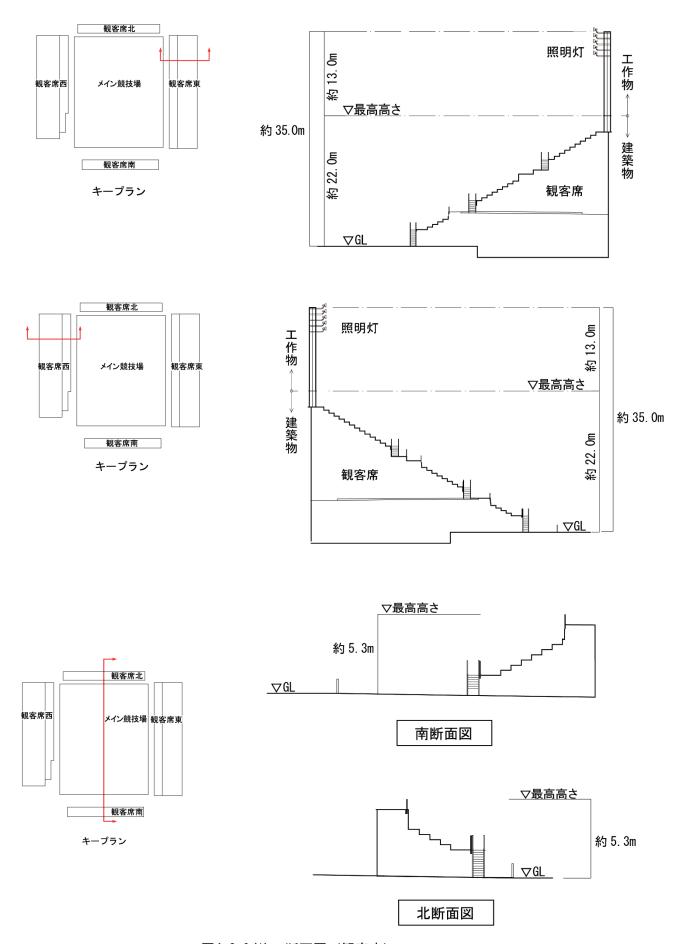


図4.2-9(1) 断面図 (観客席)

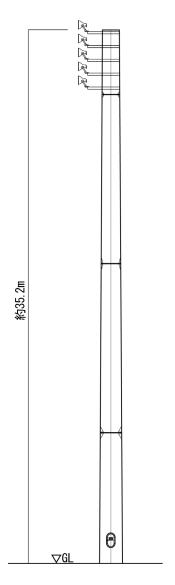


図4.2-9(2) 側面図(独立柱型照明塔)

4.2.5 施工計画

(1) 工事工程

東京 2020 大会前の恒久施設改修整備は、2017 年 1 月に着工し、2019 年秋までの 34 か月を要した。

また、東京 2020 大会前の仮設施設整備は、2018 年 11 月に着工し、テストイベントの工事休止 期間を経て、2020 年 4 月までの 17 か月を要した。また、東京 2020 大会後の仮設施設の解体工事 は、大会後から 2022 年 2 月までの予定である。

工事工程は、表 4.2-4 に示すとおりである。

2017年度 2018年度 2019年度 工種/工事月 2016年度 2020年度 2021年度 大会運営用施設工事等 観客席工事 組織委員会 仮設施設整備 照明工事 Ĺij 解体工事 解体工事 杭工事 ス . 7 山留・土工事 建築 基礎躯体工事 5 日本中央競馬会 地上躯体工事 _ˈ ŋ 恒久施設 仕上工事 改修整備 Ľ 外構工事 _ ! " 造成工事 ク 土木 地下道工事 舗装工事

表 4.2-4 工事工程

- 注1) 組織委員会の仮設施設整備は、組織委員会へのヒアリングに基づき作成。
 - 2) 日本中央競馬会の恒久施設改修整備は、日本中央競馬会へのヒアリングに基づき作成。

(2) 施工方法の概要(恒久施設改修整備)

1) 解体工事

外周部の仮囲いには既存柵を利用し、一部ゲート周辺に鋼製仮囲い(高さ約3m)を設置し、 仮設事務所の設置等を行った。また、解体する既存施設の周囲等には、粉じんや騒音対策とし て足場仮設にシート養生を行った。

解体工事には、油圧圧砕機等を用いた。アスベスト等の特別管理産業廃棄物等については、 関連法令に基づき、適正に処理した。

2) 杭工事

基礎工事として、既製杭を打設した。

3) 山留・土工事

掘削工事にあたり、工事中の地下水流入や土砂の崩壊を防止するため、遮水性・剛性の高い 工法による山留を行った。また、基礎躯体の下端レベルまで掘削を行った。掘削はバックホウ を使用し、発生土はダンプトラックに積み込んで搬出した。

4) 基礎躯体工事

掘削工事完了後、計画建築物の基礎躯体を構築した。構築は、鉄筋組立、型枠の建込みを行い、コンクリートを打設した。

5) 地上躯体工事

基礎躯体工事完了後、支柱建方、屋根鉄骨地組、屋根仕上、地上階床躯体工事等を行った。 材料の荷揚げにはラフタークレーン、クローラークレーン等を用いて行った。

6) 仕上工事

躯体工事の完了した階から順次外壁仕上、内装建具等の仕上工事を実施した。また、電気設備や機械設備の搬入・設置を行った。

7) 外構工事

建物周辺の一部の既存樹木の伐採、移植、新植樹木の配植等を行った。

8) 造成工事

公苑内各所にて造成工事、水槽設置工事を行っている。造成工事は、バックホウ、ブルドーザ、モーターグレーダー、ローラー等を用いて行った。

9) 地下道工事

道路に山留・仮設覆工を施工し、既存地下道の解体及び新設地下道工事を実施した。解体工事は、油圧圧砕機等、新設工事はバックホウ、ラフタークレーン等を用いて行った。

10) 舗装工事

公苑内各所にて馬場仕上工事、舗装仕上工事を行った。

(3) 施工方法の概要(仮設施設整備)

1) 大会運営用施設工事等

プレハブ、テント等の仮設施設の設置工事を行うほか、日本中央競馬会が整備しているメインオフィス、インドアアリーナ、管理センター、審判棟、厩舎等の恒久施設の内装改修や設備工事を行った。

2) 観客席工事

テストイベント前に先行して仮設施設の基礎工事及び一部鉄骨工事を行い、大半のスタンド 構築工事は、テストイベント後に実施した。

3) 照明工事

仮設施設の基礎工事として、既成杭を打設し、照明灯の設置工事を行った。

4) 解体工事

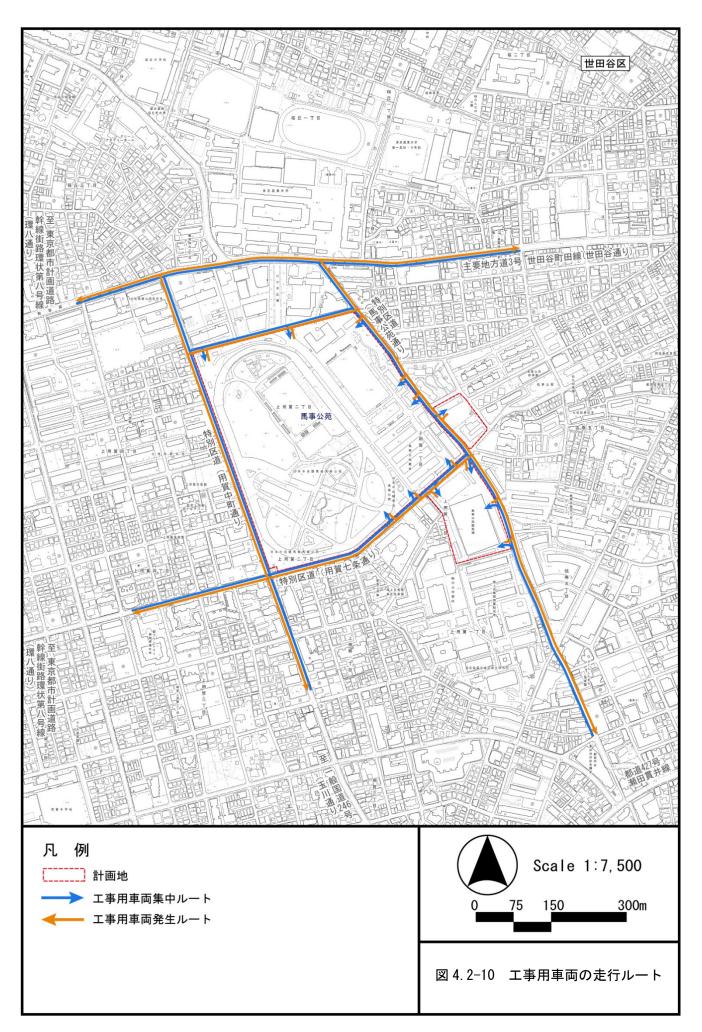
仮設施設の解体・撤去工事等を行うほか、恒久施設の原状回復工事を行った。

(4) 工事用車両

工事用車両の主な走行ルートは、図4.2-10に示すとおりである。

工事用車両の走行に伴う沿道環境への影響を極力小さくするため、工事用車両は、主に主要地方道3号世田谷町田線(世田谷通り)、東京都市計画道路幹線街路環状第八号線(環八通り)、一般国道246号(玉川通り)の幹線道路から計画地へ出入場した。

日本中央競馬会の恒久施設改修整備及び組織委員会の仮設施設整備の工事用車両台数のピークは、恒久施設改修整備着工後 24 か月目、仮設施設整備着工後 2 か月目であり、ピーク日において、入場台数大型車 158 台/日、小型車 181 台/日、合計 339 台/日、出場台数大型車 159 台/日、小型車 182 台/日、合計 341 台/日であった。



(5) 建設機械

各工種において使用する主な建設機械は、表 4.2-5(1)及び(2)に示すとおりである。

工事に使用する建設機械は、周辺環境への影響に配慮して、排出ガス対策型建設機械及び低騒音型の建設機械を積極的に採用するとともに、不要なアイドリングの防止に努める等、排出ガスの削減及び騒音の低減に努めた。

工種	主な建設機械
解体工事	油圧圧砕機、タイヤシャベル、バックホウ
杭工事	三点式杭打機、ラフタークレーン、クローラークレーン、バックホウ
山留・土工事	ラフタークレーン、バックホウ
基礎躯体工事	ラフタークレーン、クローラークレーン、コンクリートポンプ車
地上躯体工事	ラフタークレーン、クローラークレーン、コンクリートポンプ車
仕上工事	ラフタークレーン
外構工事	ラフタークレーン、バックホウ
造成工事	バックホウ、ラフタークレーン、ブルドーザ、モーターグレーダー、 振動ローラー
地下道工事	油圧圧砕機、ラフタークレーン、バックホウ、コンクリートポンプ車
舗装工事	バックホウ、ラフタークレーン、ブルドーザ、モーターグレーダー、 アスファルトフィニッシャ

表4.2-5(1) 主な建設機械(恒久施設改修整備)

表 4.2-5 (2) 主な建設機械(仮設施設整備)

工種	主な建設機械		
大会運営工事等	ラフタークレーン、バックホウ		
観客席工事	ラフタークレーン、バックホウ		
照明工事	三点式杭打機、ラフタークレーン、バックホウ		
解体工事	ラフタークレーン、バックホウ(解体仕様)、杭抜き機		

(6) 工事中の廃棄物等処理計画

建設工事に伴い発生する建設発生土及び建設廃棄物は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (昭和45年法律第137号)、資源の有効な利用の促進に関する法律(平成3年法律第48号)、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(平成12年法律第104号)等に基づき、再生利用可能な掘削土砂及び廃棄物については積極的にリサイクルに努め、リサイクルが困難なものについては適切な処理を行った。

4.2.6 供用の計画

恒久施設の第1期工事の建築物の竣工は、2019 年 10 月に竣工した。なお、馬事公苑の再開は 2023 年秋を予定している。

4.2.7 環境保全に関する計画等への配慮の内容

本事業にかかわる主な環境保全に関する上位計画としては、「東京都環境基本計画」、「世田谷区環境基本計画」等がある。環境保全に関する計画等への配慮事項は、表 4.2-6(1)~(8)に示すとおりである。

表4.2-6(1) 環境保全に関する計画等への配慮の内容

	衣4. 2⁻0(1) 環境休主に関する	
計画等の名称	計画等の概要	本事業で配慮した事項
計画等の名称 東京都環境基本計画 (平成28年3月)	計画等の概要 ・「世界一の環境先進都市・東京」の実現 ◆スマートエネルギー都市の実現 ◆3R・適正処理の促進と「持続可能な資源利用」の推進 ◆自然豊かで多様市で多る都市場での大気である。 ・と共生できる都市場である。 ・と共生できるが、良質な土壌と水循環の横断的・総合的な取組	本事業で配慮した事項 ・工事用車両の走行ルートは複数のルートに分散させた。・規制速度を遵守した。・規制速度を遵守した。・規制速度を遵守した。・規制速度を遵守した。・規制速度を適守した。中間処理施設へ搬出し、マラリエ事等に付かるを主等に利用しての利用を行っは、場外に投資を対して、とまるととも、場所をは、場別ののは、場別のでは、場別のでは、場別のでは、場別のでは、場別のでは、場別のでは、場別のでは、場別のでは、場別のでは、場別のでは、場別のでは、場別のでは、場別のでは、場別のでは、場別のでは、場別のでは、場別のは、場別のは、場別のは、場別のは、場別のは、場別のは、場別のは、場別の
		環境物品等の調達を行った。

表4.2-6(2) 環境保全に関する計画等への配慮の内容

		る計画等への配慮の内容
計画等の名称	計画等の概要	本事業で配慮した事項
東京都環境基本計画 (平成28年3月) (つづき)	・「世界一の環境先進都市・東京」の実現 ◆スマートエネルギー都市の実現 ・3 R・適正処理の促進と「持続可能な資源利用」の推進 ◆自然豊かで多様な生きものと共生できる都市環境の継承	・武蔵野自然林や外周部樹林帯は、保全エリアとして樹木保全を基本とし、苑内についてははらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッサージュのケヤキ等の既存樹木を可能な限り残存させた。 ・苑内の一部の樹木は移植を行いつつ、適宜、新植樹木を配植して緑量を確保する。 ・世田谷区みどりの基本条例(平成17年世田谷区条例第13号)における緑化基準をそれぞれの敷
	◆快適な大気環境、良質な土壌と水循環の確保◆環境施策の横断的・総合的な取組	地(北エリア、南エリア、公和寮エリア)で満たし、北エリアで約79,410m²、南エリアで約5,370m²、公和寮エリアで約860m²とする予定である。 ・苑内で親しまれてきたお花畑やウメ、サクラ、メインアリーナやグラスアリーナ周辺のフジ等を集約し、一年を通じて見どころのある広場とする四季の広場のほか、はらっぱ広場・子ども広場として拡がりのある大きな草地の広場を設ける。
		・注目される植物のうち、自生種のギンラン、キンラン、クゲヌマランについては、生育エリアの工事計画に応じて現位置での保全または保全エリアである武蔵野自然林内に可能な限り移植している。 ・排出ガス対策型建設機械(第2次基準値)を使用
		した。 ・北エリアの管理センターの建設の際には、高さ 1.5mの既存ブロック塀の上に高さ1.8mの防音シートを設置した。 ・北エリア及び南エリアの地下道スロープ施工の際には、高さ2.0mの防音シート付仮囲いを設置
		した。 ・診療所については、床面に浸透防止材料を用い、薬品の地下浸透を防止するほか、馬診療所の薬品については、獣医師が適切に管理し、使用済みの馬用医薬品は適切に処分している。 ・装蹄所については、有害物質は取り扱わない。
東京都自動車排出 窒素酸化物及び自 動車排出粒子状物 質総量削減計画 (平成25年7月)	・低公害・低燃費車の普及促進、エコドライブの普及促進、交通量対策、交通流対策、局地汚染対策の推進等	 ・工事用車両の走行ルートは複数のルートに分散させた。 ・工事用車両の出入口には交通整理員を配置し、計画地周辺の一般歩行者の通行に支障を与えないよう配慮した。 ・計画地周辺の歩道等を占用する工事を行う場合には、代替路の設置、交通整理員の配置等を行った。 ・工事用車両の走行に当たっては、安全走行を徹底するよう指導した。
緑の東京計画 (平成12年12月)	・既成市街地の再開発などにより生み出される公開空地の効果的な確保により、緑地の創生を図る・建物の建て替え時などに、屋上等の緑化などを進める	・武蔵野自然林や外周部樹林帯は、保全エリアとして樹木保全を基本とし、苑内についてははらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッサージュのケヤキ等の既存樹木を可能な限り残存させた。 ・苑内の一部の樹木は移植を行いつつ、適宜、新植樹木を配植して緑量を確保する。 ・世田谷区みどりの基本条例(平成17年世田谷区条例第13号)における緑化基準をそれぞれの敷地(北エリア、南エリア、公和寮エリア)で満たし、北エリアで約79,410㎡、南エリアで約5,370㎡、公和寮エリアで約860㎡とする予定である。 ・苑内で親しまれてきたお花畑やウメ、サクラ、メ
		インアリーナやグラスアリーナ周辺のフジ等を 集約し、一年を通じて見どころのある広場とす る四季の広場のほか、はらっぱ広場・子ども広 場として拡がりのある大きな草地の広場を設け る。

表4.2-6(3) 環境保全に関する計画等への配慮の内容

計画等の名称		本事業で配慮した事項
緑の東京計画	日岡 サツ州女	・注目される植物のうち、自生種のギンラン、キン
(平成12年12月)		ラン、クゲヌマランについては、生育エリアの
(つづき)		工事計画に応じて現位置での保全または保全エ
()		リアである武蔵野自然林内に可能な限り移植し
		ている。
「緑の東京10年プ	・道路整備などにあわせ、厚みと広	・武蔵野自然林や外周部樹林帯は、保全エリアと
ロジェクト」基本	がりをもった緑の満ちる空間が	して樹木保全を基本とし、苑内についてははら
方針	連続する「環境軸」の形成・展開	っぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ
(平成19年6月)	・屋上・壁面、鉄道敷地・駐車場、 その他あらゆる都市空間の緑化	群、サクラドレッサージュのケヤキ等の既存樹 木を可能な限り残存させた。
	で合計400haの緑を創出	- 「「たられないり及行させた。」 - ・苑内の一部の樹木は移植を行いつつ、適宜、新植
	く日日 100Hav / 赤 石 石 山	樹木を配植して緑量を確保する。
		・世田谷区みどりの基本条例(平成17年世田谷区
		条例第13号)における緑化基準をそれぞれの敷
		地 (北エリア、南エリア、公和寮エリア) で満た
		し、北エリアで約79,410㎡、南エリアで約
		5,370m ² 、公和寮エリアで約860m ² とする予定であ
		│ る。 ・苑内で親しまれてきたお花畑やウメ、サクラ、メ
		インアリーナやグラスアリーナ周辺のフジ等を
		集約し、一年を通じて見どころのある広場とす
		る四季の広場のほか、はらっぱ広場・子ども広
		場として拡がりのある大きな草地の広場を設け
		る。
		・注目される植物のうち、自生種のギンラン、キン
		ラン、クゲヌマランについては、生育エリアの
		工事計画に応じて現位置での保全または保全工 リアである武蔵野自然林内に可能な限り移植し
		ている。
みどりの新戦略ガ	・主たる都市施設と周辺のまちづ	・武蔵野自然林や外周部樹林帯は、保全エリアと
イドライン	くりにより形成されるみどり豊	して樹木保全を基本とし、苑内についてははら
(平成18年1月)	かで広がりと厚みを持った良好	っぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ
	な空間の創出	群、サクラドレッサージュのケヤキ等の既存樹
	・みどりの拠点と軸に顔を向けた みどりの空間創出誘導	木を可能な限り残存させた。 ・苑内の一部の樹木は移植を行いつつ、適宜、新植
	みとりの空间創山勝等	樹木を配植して緑量を確保する。
		・世田谷区みどりの基本条例(平成17年世田谷区
		条例第13号)における緑化基準をそれぞれの敷
		地(北エリア、南エリア、公和寮エリア)で満た
		し、北エリアで約79,410m ² 、南エリアで約
		5,370m ² 、公和寮エリアで約860m ² とする予定であ
		る。 ・苑内で親しまれてきたお花畑やウメ、サクラ、メ
		・妃内で祝しまれてさたね花畑やリグ、リグブ、グ インアリーナやグラスアリーナ周辺のフジ等を
		集約し、一年を通じて見どころのある広場とす
		る四季の広場のほか、はらっぱ広場・子ども広
		場として拡がりのある大きな草地の広場を設け
		3.
		・注目される植物のうち、自生種のギンラン、キン
		ラン、クゲヌマランについては、生育エリアの 工事計画に応じて現位置での保全または保全エ
		工事計画に応じて現位直での保生または保生工 リアである武蔵野自然林内に可能な限り移植し
		ケアでめる氏臓野白然体内に可能な取り物値と
		✓ √ ′ ′ √ ′

表4.2-6(4) 環境保全に関する計画等への配慮の内容

計画等の複要 東京都最親計画 (2011年4月改定 版) (学成23年4月) (学校学社会会会の歴史と開発を感じられるよう既存か人経生を必要を進り、周知と応じ、おり、大きなのの歴史と開発を感じられるよう既存かしたは、中間処理施設や繰出し、マシリンでは、海外を計画地内の理房と上等と対しての利用を行った。 (地球出する場合をは、受人基準設定している発展している会計画地内の理房と上等と対している。会計画地内の理房と上等と対している。会計画地内の理房と上等と対している。会計画地内の理房と上等と対している場合には、受人基準設定している場合には、で成立を計画している場合には、要を寄いるの理路とによるとを確認のうえ、関係法令に依る音可を受けた施設において、適正な処理を行った。 (地球でを行って減量化したとともに、場外・鍛しする場合には、再発変派化施設に搬出した。建設工事に保る資材の再資源を行った。 ・建設工事にはる資材の再資源を行った。 ・建設工事にはる資材の再資源を行っている。・建設工事にはる資材の再資源を発行した。 ・建設工事にはる資材の再資源を発行した。 ・建設工事にはる資材の再資源を発行した。 ・建設工事にはる資材の再資源を発行した。 ・建設工事にはる資材の再資源を発行した。 ・建設工事にはている。は、原業がの処理及び消費をでつている。・ ・連設工事にはよびく対応とび消費を行った。・ ・連設工事にはよびく対応を発行した。 ・連設工事にはよびく対応とび行かに、を確なにない、他の廃棄物と区分した保育を行った。・ ・世俗との分別力法に従い、との状況が表現では、対域と対しているには、東京都で持続可能な資源を発行している。・ ・連載工事により確認として、東京教育により確認している。・ ・連載工事に対しているには、東京教育を経過であり、表現に対して、会計を表現している。 ・ では、対域では、対域では、対域では、対域では、対域では、対域では、対域では、対域	到 正放 ~ 5 4	衣4. Z=0 (4)	
(平成23年4月) (平成28年3月) (中国28年3月) (中国2			
東京都資源循環・ 廃棄物処理計画 (平成28年3月) ・	(2011年4月改定 版)	・河川や運河沿いの開発による水 辺空間の	して樹木保全を基本とし、苑内についてははらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッサージュのケヤキ等の既存樹木を可能な限り残存させた。 ・外周部樹林帯は、高木の間引き等に伴い外周部の緑が途切れてしまう箇所には高木を適宜補植し、外周部からアイレベルで視線を遮り、周辺に配慮した樹林地を形成する。 ・苑内の一部の樹木は移植を行いつつ、適宜、新植樹木を配植して緑量を確保する。 ・正門付近では、馬事公苑の歴史と風格を感じられるよう既存の大径木を出来る限り保存し、メインプロムナードではサクラ並木のプロムナードとしたほか、放牧場の大径木を保存した。
 ・エコマテリアルの利用と持続可能な調達の普及の促進 ・廃棄物の循環的利用の更なる促進 ・廃棄物の適正処理と排出者のマナー向上 ・健全で信頼される静脈ビジネスの発展 ・災害廃棄物対策 ・災害廃棄物対策 ・運設下ルリサイクルとしての利用を行った。 ・掘削工事等に伴い発生する建設発生土は、一部を計画地内の埋戻し土等に利用したほか、場外に搬出する場合には、受入基準を満足していることを確認のうえ、関係法令に係る許可を受けた施設において、適正な処理を行った。 ・山留工事、杭工事における建設泥土については、脱水等を行って減量化したとともに、場外へ搬出する場合には、再資源化施設に搬出した。 ・建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(平成12年法律第104号)に基づく特定建設資材廃棄物については現場内で分別解体を行い、。 ・建設廃棄物の分別を徹底し、種類に応じて保管、排出、再利用促進及び不要材の減量等を図った。 ・再利用できないものは、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、運搬・処分の許可を得た業者に委託して処理・処分を行い、その状況はマニフェストにより確認した。アスベストについても、同法律に基づく対応を行ない、他の廃棄物と区分した保管・収集・運搬、中間処理及び処分等、適切な対策を行った。 ・世田谷区の分別方法に従い、古紙、ガラスびん、缶等は、資源として分別回収を行っている。 ・施設等の稼働に当たっては、東京都「持続可能な資源利用」に向けた取組方針も踏まえ、事業系 	東京都資源循環・	・資源ロスの削減	
ている。	廃棄物処理計画	・エコマテリアルの利用と持続可能な調達の普及の促進・廃棄物の循環的利用の更なる促進(高度化・効率化)・廃棄物の適正処理と排出者のマナー向上・健全で信頼される静脈ビジネスの発展	 ・掘削工事等に伴い発生する建設発生土は、、場外に搬出する場合には、受入基準を満足して受けた搬出する場合に、関係法令に係る許正を設定に、関係を設定ができる。 ・山留工事、杭工事における建設泥土については、脱水等を行には、再では、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きないでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが

表4.2-6(5) 環境保全に関する計画等への配慮の内容

計画等の名称	計画等の概要	本事業で配慮した事項
東京都建設リサイクル推進計画 (平成28年4月)	・コンクリート塊等を活用する ・建設発生木材を活用する ・建設発生土を活用する ・建設発生土を活用する ・廃棄物を建設資材に活用する ・建設グリーン調達を推進する ・建築物等を長期使用する ・戦略を支える基盤を構築する ・島の建設リサイクルを推進する	・伐採樹木については、中間処理施設へ搬出し、マテリアルリサイクルとしての利用を行った。 ・掘削工事等に伴い発生する建設発生土は、一部を計画地内の埋戻し土等に利用したほか、場外に搬出する場合には、受入基準を満足していることを確認のうえ、関係法令に係る許可を受けた施設において、適正な処理を行った。 ・山留工事、杭工事における建設泥土については、脱水等を行って減量化したとともに、場外へ出する場合には、再資源化等に関する法律(平成12年法律第104号)に基づく特定建設資材廃棄物に可以場外で予別解体を行いた。 ・建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(平成12年法律第104号)に基づく特定建設資材廃棄物に現場外で再分別解体を行いた。 ・建設廃棄物の分別を徹底し、種類に応じて保管、排出、再利用促進及び不要材の減量等を図った。・建設廃棄物の分別を徹底し、種類に応じて保管、排出、再利用できないものは、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、運搬・処分の許によりによりを行い、その状況はマニフェストにより確認した。アスベストについても、同法律に基づく対応を行ない、他の廃棄物と区分した保管・収集・運搬、中間処理及び処分等、適切な対策を行った。 ・「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」(平成28年2月2日変更閣議決定)等に基づき、環境物品等の調達を行った。

表4.2-6(6) 環境保全に関する計画等への配慮の内容

計画等の名称 計画等の概要 本事業で配慮した事項 ・武蔵野自然林や外周部樹林帯は、保全エリアとして 世田谷区環境基本 世田谷区環境基本条例(以 下、「条例」) 第7条の規定に基 計画 樹木保全を基本とし、苑内についてははらっぱ広場、 ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレ (平成27年3月) づき、区の環境の現状と課題 を踏まえ、環境の保全、回復及 ッサージュのケヤキ等の既存樹木を可能な限り残存 させた。 び創出に関する施策を総合的 かつ計画的に推進するために ・苑内の一部の樹木は移植を行いつつ、適宜、新植樹木 策定する計画であり、環境の を配植して緑量を確保する。 保全等に関する目標と方針、 ・世田谷区みどりの基本条例(平成17年世田谷区条例第 重点的に取り組むべき事項を 13号)における緑化基準をそれぞれの敷地(北エリ 定めている。これまで、平成8 ア、南エリア、公和寮エリア)で満たし、北エリアで 年、平成12年(調整計画)、平 約79,410m²、南エリアで約5,370m²、公和寮エリアで約 成17年、平成22年(調整計画) 860m²とする予定である。 に環境基本計画を策定し、今 ・苑内で親しまれてきたお花畑やウメ、サクラ、メイン 回、平成27年度から平成36年 アリーナやグラスアリーナ周辺のフジ等を集約し、 一年を通じて見どころのある広場とする四季の広場 度までの10か年の計画を策定 した。本計画は、平成25年9月 のほか、はらっぱ広場・子ども広場として拡がりのあ に策定された世田谷区基本構 る大きな草地の広場を設ける。 想及び平成26年3月に策定さ ・注目される植物のうち、自生種のギンラン、キンラ れた世田谷区基本計画との整 ン、クゲヌマランについては、生育エリアの工事計画 合を図っている。 に応じて現位置での保全または保全エリアである武 世田谷区のめざす環境像と 蔵野自然林内に可能な限り移植している。 しては、「自然の力と人の暮ら ・伐採樹木については、中間処理施設へ搬出し、マテリ しが豊かな未来をつくる~環 アルリサイクルとしての利用を行った。 境共生都市せたがや~」とし、 ・掘削工事等に伴い発生する建設発生土は、一部を計 画地内の埋戻し土等に利用したほか、場外に搬出す それを実現するために下記の 5つの目標と13の方針に基づ る場合には、受入基準を満足していることを確認の く施策が記載されている。 うえ、関係法令に係る許可を受けた施設において、適 基本目標1 みどりとみず 正な処理を行った。 の豊かな潤い ・山留工事、杭工事における建設泥土については、脱水 のあるまちを 等を行って減量化したとともに、場外へ搬出する場 つくります 合には、再資源化施設に搬出した。 自然の恵みを 基本目標2 ・建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(平成 12年法律第104号)に基づく特定建設資材廃棄物につ 活かしたエネ ルギーの利用 いては現場内で分別解体を行い、可能な限り現場内 利用に努め、現場で利用できないものは現場外で再 拡大と創出を めざします 資源化を行った。 ・建設廃棄物の分別を徹底し、種類に応じて保管、排 基本目標3 環境負荷を抑 えたライフス 出、再利用促進及び不要材の減量等を図った。 タイルを確立 ・再利用できないものは、「廃棄物の処理及び清掃に関 する法律」に基づき、運搬・処分の許可を得た業者に します 委託して処理・処分を行い、その状況はマニフェスト 基本目標4 地球温暖化に により確認した。アスベストについても、同法律に基 対応し安心し て暮らせる地 づく対応を行ない、他の廃棄物と区分した保管・収 域社会を推進 集・運搬、中間処理及び処分等、適切な対策を行った。 ・世田谷区の分別方法に従い、古紙、ガラスびん、缶等 します は、資源として分別回収を行っている。 基本目標5 快適で暮らしや ・施設等の稼働に当たっては、東京都「持続可能な資源 すい生活環境を 利用」に向けた取組方針も踏まえ、事業系廃棄物の分 確保します 別回収等、廃棄物の循環利用を進めている。 ・「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」(平成 28年2月2日変更閣議決定) 等に基づき、環境物品等 の調達を行った。

・排出ガス対策型建設機械(第2次基準値)を使用し

表4.2-6(7) 環境保全に関する計画等への配慮の内容

-1 total -1 1	衣4. 2⁻0 (/)	
計画等の名称	計画等の概要	本事業で配慮した事項
みどりとみずの基本計画 〜世田谷みどり33 に向けて〜 (平成20年3月)	区制100周年を迎える2032年(平成44年)に「みどり率」を33パーセントとすることをめざす「世田谷みどり33」を進めるため、平成20年度から平成29年度の計画となる「世田谷区みどりとみずの基本計画」を策定した。 この計画は、目標を実現するために下記の4つの基本方針を定め、それぞれの施策が記載されている。基本方針1世田谷らしいみどりとみずの保全基本方針2地域の水循環の再生基本方針3地域にあったみどりとみずの創出基本方針4みどりとみずのある暮らしの応援	・武蔵野自然林や外周部樹林帯は、保全エリはらっぱが保全を基本とし、苑内についてラヤスギ群、サクラドレッサージュのケヤキ等の既存樹木を可能な限り残存させた。 ・苑内の一部の樹木は移植を行いつつ、適宜、新植樹木を配植して緑量を確保した。・世田谷区みどりの基本条例(平成17年世田谷区条例第13号)における緑化基準をそれぞれの敷地(北エリア、南エリア、公和寮エリア)で満たし、北エリアで約79,410㎡、南エリアで流たし、北エリアで約860㎡とする予定である。・苑内で親しまれてきたお花畑やウメ、サクラ等とある。・苑内で親しまれてきたお花畑やウメ、サクラ等とないで親しまれてきスアリーナのある子どである。・苑内で親しまれてきるアリアのおりがよいのある子とないよりでのよりではいる。・注目される植物のうち、自生種のギンラン、アの工事計画にはでの保全または保全エリアである武蔵野自然林内に可能な限り移植し
風景づくり計画(平成27年4月)	風景では、大学では、 風景では、大学では、 り計画景が、ににからる。 りは、くりとしている。 のでは、では、 のでは、では、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 の	でいる。 ・武蔵野自然林や外周部樹林帯は、保全エリアとして樹木保全を基本とし、苑内についてははらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッサージュのケヤキ等の既存樹木を可能な限り残存させた。 ・外周部樹林帯は、高木の間引き等に伴い外周部の緑が途切れてしまう箇所には線を遮り、周辺に配慮した樹林地を形成する予定である。 ・苑内の一部の樹木は移植を行いつつ、適宜、新植樹木を配植して緑量を確保した。 ・正門付近では、馬事公苑の歴史と風格を感じられるよう既存の大径木を出来る限り保存ムナードではサクラ並木のプロムナードとしたほか、放牧場の大径木を保存した。 ・計画建築物の最高高さを18mに抑えた。

表4.2-6(8) 環境保全に関する計画等への配慮の内容

-1 tota - 1	-1 total law	
計画等の名称	計画等の概要	本事業で配慮した事項
世田谷区一般廃棄	中期的・長期的視点から世田谷区	・伐採樹木については、中間処理施設へ搬出し、マ
物処理基本計画	の一般廃棄物(資源・ごみ、生活排	テリアルリサイクルとしての利用を行った。
(平成27年3月)	水)に関する施策の方向性を総合的	・掘削工事等に伴い発生する建設発生土は、一部
	に明らかにする計画であり、これま	を計画地内の埋戻し土等に利用したほか、場外
	での3Rの推進から、発生抑制(リデ	に搬出する場合には、受入基準を満足している
	ュース)と再使用(リユース)の2R	ことを確認のうえ、関係法令に係る許可を受け
	に重点を置いて全面的に見直した。	た施設において、適正な処理を行った。
	本計画は、廃棄物の処理及び清掃に	・山留工事、杭工事における建設泥土については、
	関する法律に規定する一般廃棄物	脱水等を行って減量化したとともに、場外へ搬
	処理計画に該当し、中・長期的視点	出する場合には、再資源化施設に搬出した。
	から世田谷区の一般廃棄物(資源・	・建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律
	ごみ、生活排水)に関する施策の方	(平成12年法律第104号)に基づく特定建設資材
	向性を明らかにするものである。	廃棄物については現場内で分別解体を行い、可
	計画期間は平成27年度から平成	能な限り現場内利用に努め、現場で利用できな
	36年度の10年間とする。但し、計画	いものは現場外で再資源化を行った。
	の前提条件に大きな変更があった	・建設廃棄物の分別を徹底し、種類に応じて保管、
	場合などは、概ね5年で見直す。	排出、再利用促進及び不要材の減量等を図った。
	基本理念は、「環境に配慮した持	・再利用できないものは、「廃棄物の処理及び清掃
	続可能な社会の実現」とし、基本方	に関する法律」に基づき、運搬・処分の許可を得
	針は以下の3つが挙げられている。	た業者に委託して処理・処分を行い、その状況
	1. 区民・事業者主体による取組みを	はマニフェストにより確認した。アスベストに
	推進する	ついても、同法律に基づく対応を行い、他の廃
	2. 拡大生産者責任の考え方に基づ	棄物と区分した保管・収集・運搬、中間処理及び
	く発生・排出抑制を推進する	処分等、適切な対策を行った。
	3. 環境への負荷低減などの効果と	・「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」
	費用を勘案した効率的な事業を	(平成28年2月2日変更閣議決定)等に基づき、
	展開する	環境物品等の調達を行った。
		・世田谷区の分別方法に従い、古紙、ガラスびん、 毎等は、資源として分別回収を行っている。
		・施設等の稼働に当たっては、東京都「持続可能な
		で記録すり では、東京都・行航可能な 資源利用 に向けた取組方針も踏まえ、事業系
		展棄物の分別回収等、廃棄物の循環利用を進め 産業物の分別回収等、廃棄物の循環利用を進め
		展来物の方別回収等、廃来物の循環利用を進め ている。
		(' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' '

4.3 馬事公苑の計画の策定に至った経過

オリンピック及びパラリンピックの馬術競技会場(クロスカントリーを除く)は、立候補ファイル時点では、江東区の夢の島競技場に仮設で整備する計画としていた。

その後、既存施設活用の観点から馬事公苑への会場変更の検討がなされた。施設所有者である日本中央競馬会や国際競技連盟との協議を踏まえ、最終的に2015年2月のIOC理事会及び2015年11月のIPC理事会において、夢の島競技場から馬事公苑への会場変更が承認された。

5. 調査結果の概略

本フォローアップ調査は、大会開催後の時点における土壌、生物の生育・生息基盤、生物・生態系、緑、日影、景観、自然との触れ合い活動の場、歩行者空間の快適性、水利用、廃棄物、温室効果ガス、エネルギー、安全、消防・防災の調査結果である。調査結果の概略は、表 5-1(1)~(6)に示すとおりである。

表5-1(1) 調査結果の概略

項目	調査結果の概略
土壤	ア. 土壌汚染物質(濃度、状況等)の変化の程度 事業の実施に伴い、従前と同様に診療所や装蹄所を整備した。診療所の床面には浸透防 止材料を用いており、診療所で使用する薬品の地下浸透を防止する。今後、施設の稼働の 際は、薬品については、獣医師が適切に管理し、使用済みの馬用医薬品は適切に処分する。 また、装蹄所では、有害物質を取り扱わない。 以上のことから、予測結果と同様に、施設等の持続的稼働に伴い、新たな土壌汚染が生 じるおそれはないと考える。
生物の生育・生息基盤	ア. 生物・生態系の賦存地の改変の程度 事業の実施に当たり、高木が生育する主要な生物・生態系の賦存地である武蔵野自然林 や外周部樹林帯については、保全エリアとして樹木保全を基本とした。苑内については、 はらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッサージュのケヤキ等 の既存樹木を可能な限り残した。今後、2023 年秋までの2期工事において、四季の森広場 のほか、はらっぱ広場、子ども広場として大きな草地の広場、ナチュラルアリーナ、サク ラドレッサージュを整備する予定である。 緑化面積としては、世田谷区みどりの基本条例(平成17年世田谷区条例第13号)における緑化基準をそれぞれの敷地(北エリア、南エリア、公和寮エリア)で満たし、北エリアで 約79,410㎡、南エリアで約5,370㎡、公和寮エリアで約860㎡とする予定である。 以上のことから、予測結果と同様に、保全する武蔵野自然林や外周部樹林帯も含めた陸 域の生物・生態系の賦存地は維持されるものと考える。
	4. 新たな生物の生育・生活を盛め削出の有無型のにその程度 緑化面積としては、世田谷区みどりの基本条例(平成17年世田谷区条例第13号)における緑化基準をそれぞれの敷地(北エリア、南エリア、公和寮エリア)で満たし、北エリアで約79,410m²、南エリアで約5,370m²、公和寮エリアで約860m²とする予定である。また、新たに創出する緑地は、苑内で親しまれてきたお花畑やウメ、サクラ、メインアリーナやグラスアリーナ周辺のフジ等を集約し、一年を通じて見どころのある広場とする四季の広場のほか、はらっぱ広場・子ども広場として拡がりのある大きな草地の広場を設ける予定である。 以上のことから、予測結果と同様に、新たに整備する緑地等において生物の生育・生息基盤が創出されるものと考える。
生物・生態系	ア. 陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度 事業の実施に伴い、計画地内の落葉広葉樹、常緑広葉樹、常緑針葉樹等の植栽樹が改変されたほか、シバ群落等の植物の生育地の一部が改変された。 事業の実施に当たっては、世田谷区みどりの基本条例(平成17年世田谷区条例第13号)における緑化基準をそれぞれの敷地(北エリア、南エリア、公和寮エリア)で満たし、北エリアで約79,410m²、南エリアで約5,370m²、公和寮エリアで約860m²とする予定である。また、武蔵野自然林や外周部樹林帯は、保全エリアとして樹木を保全するとともに、はらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッサージュのケヤキ等の既存樹木を可能な限り残置した。 確認された注目される種のうち、ギンラン、キンラン、クゲヌマランの3種は、現位置での保全または保全エリアである武蔵野自然林内に可能な限り移植し、移植後も良好な生育が確認された。 以上のことから、予測結果と同様に、苑内の植物相及び植物群衆の多くは維持されるものと考える。

表5-1(2) 調査結果の概略

項目	調査結果の概略
生物・生態系	イ. 陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度
(つづき)	事業の実施に伴い、樹林、草地、人工裸地の一部が改変され、苑内を主たる生息地とする哺乳類、鳥類、昆虫類等の生息地が改変された。
	事業の実施に伴い、武蔵野自然林や外周部樹林帯は、保全エリアとして樹木を保全する
	とともに、はらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッサージュ
	のケヤキ等の既存樹木を可能な限り残置した。今後、2023年秋までの2期工事において、四季の本店間のほか、は2、18店間、スピュ店間は1、ストネの基準の店間、ナインラッス
	四季の森広場のほか、はらっぱ広場、子ども広場として大きな草地の広場、ナチュラルア リーナ、サクラドレッサージュを整備する予定である。
	以上のことから、予測結果と同様に、植物相及び植物群落が維持されることに伴い、そ
	れらを生息環境とする動物相及び動物群集も維持されるものと考える。また、鳥類、は虫
	類、昆虫類、クモ類等の注目される種についても、武蔵野自然林内で多く確認されている ことから、注目される動物種の多くは保全エリアを生息地として利用可能と考える。
	ことがり、住日される動物性の多くは床主ニックを生心地として利用可能と考える。
	ウ. 生育・生息環境の変化の内容及びその程度
	事業の実施に伴い、計画地内の動植物の生育・生息環境となる樹木等の伐採や土壌が改
	変された。また、計画地内の植栽樹の林床の一部には、低木類や高茎草本類が生育しているため、改変部付近に残存する樹林内では風や日射、温度、湿度等の気象要因が変化する
	ことにより、計画地内の植物群落の生育環境と、移動性の低い動物種及び動物群集(昆虫
	類の幼虫、土壌動物等)の生息環境が変化した。
	一方で、武蔵野自然林や外周部樹林帯は、保全エリアとして樹木の保全を行っており、
	移動性の低い動物種及び動物群集の生育・生息環境の変化を緩和している。 事業の実施に当たっては、世田谷区みどりの基本条例(平成17年世田谷区条例第13号)
	における緑化基準をそれぞれの敷地(北エリア、南エリア、公和寮エリア)で満たし、北
	エリアで約79,410m ² 、南エリアで約5,370m ² 、公和寮エリアで約860m ² とする予定である。
	また、はらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッサージュのケ
	ヤキ等の既存樹木を可能な限り残置した。 以上のことから、予測結果と同様に、生育・生息環境の変化の程度が緩和され、動植物
	の主要な生育・生息環境は維持されるものと考える。
	エ. 生態系の変化の内容及びその程度
	事業の実施に伴い、計画地内の樹林や草地の一部が改変され、生態系を構成する陸上植
	物、陸上動物が相互に係わる生育・生息環境が改変される。
	事業の実施に当たっては、世田谷区みどりの基本条例(平成17年世田谷区条例第13号) における緑化基準をそれぞれの敷地(北エリア、南エリア、公和寮エリア)で満たし、北
	エリアで約 79, 410m ² 、南エリアで約 5, 370m ² 、公和寮エリアで約 860m ² とする予定である。
	また、苑内における陸上植物相、陸上動物相の多くが確認されている武蔵野自然林は保全
	されるほか、苑内で親しまれてきたお花畑やウメ、サクラ、メインアリーナやグラスアリ
	ーナ周辺のフジ等を集約した四季の広場等を新たに設ける予定であるほか、外周部樹林帯 は保全エリアとして樹木の保全を行っている。
	以上のことから、予測結果と同様に、移動性の高い哺乳類や鳥類、昆虫類等については
	武蔵野自然林と外周部樹林帯を相互利用するとともに、新たな広場の利用が可能となるこ
∳ ∃	とから、苑内における主要な生態系は維持されるものと考える。
緑	ア. 植栽内容(植栽基盤など)の変化の程度 事業の実施に伴い、植栽樹群(落葉広葉、常緑針葉、常緑広葉、混交)の一部に改変が生
	じたが、武蔵野自然林や、外周部樹林帯は、保全エリアとして樹木保全を行っている。ま
	た、苑内についてははらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッ
	サージュのケヤキ等の既存樹木を広く残存している。 事業の実施に当たっては、世田谷区みどりの基本条例(平成 17 年世田谷区条例第 13 号)
	事業の実施に当たっては、世田谷区みとりの基本未例(十成17千世田谷区未例第13万) における緑化基準をそれぞれの敷地(北エリア、南エリア、公和寮エリア)で満たしている。
	また、植栽内容については、苑内で親しまれてきたお花畑やウメ、サクラ、メインアリー
	ナやグラスアリーナ周辺のフジ等を集約し、一年を通じて見どころのある広場とする四季の広場の広場とは、パロストラストラストラストラストラストラストラストラストラストラストラストラストラス
	の広場のほか、はらっぱ広場・子ども広場として拡がりのある大きな草地の広場を設ける 予定である。
	以上のことから、予測結果と同様に、植栽内容の変化の程度は小さいものと考える。

表 5-1(3) 調査結果の概略

要、常緑広葉、混交が外周部及び兎内に広く分布しており、事業前の緑の面積は 85, 265であった。 事業の実施に伴い、発内の植栽樹種(祭業広葉、常緑料葉、常緑広葉、混交の一部に注 変が生じたが、減難野自然株や内部樹林帯は、保全エリアとし着は大きやっている。 また、荒内についてははらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ鍵、サクラドリッサージュのケキ、等の原香柿木を火て発化している。また、荒内の一部の樹木は移植(有いつつ)、新植樹木を配植して緑量を確保する予定である。 近内の一部の樹木は移植(有いつつ)、新植樹木を配植して緑量を確保する予定である。 17 へ和東エリアで約19, 410㎡、南エリアで約19, 570㎡、公和東エリアで約19, 410㎡、南エリアで約19, 570㎡、公和東エリアで約19, 410㎡、南エリアで約19, 570㎡、公和東エリアで約19, 410㎡、南エリアで約19, 570㎡、公和東エリアで約19, 640㎡、西エリアで約19, 410㎡、南エリアで約19, 410㎡、南エリアで約19, 570㎡、公和東エリアで約19, 640㎡、元リアで約19, 640㎡、元リアで約19, 640㎡、元リアで約19, 640㎡、元リアで約19, 640㎡、元リアで約19, 640㎡、元リアの正側約60㎡、元リアの正側約60㎡、地点上できたりメ・サクラ、アン・サンでは大き食食が高大等の地域により新たた緑性が創出されると考さる。以上のこととによる影響を中に配慮すた多値要はおはる日影が生じ考える。とから、外側が単位の程度、上側が単位の全域を発生した。第10㎡、日影が生じる場所があるが、2時間以上の日影は生じない。また、日影規制地域と中の日影が生じる場所があるが、2時間以上の日影は全じない。以上のことから、子側結果と同様に、日影が生じることによる影響から160㎡の地域に「シースではいりでの地域、東側の中での地域、東側の日影が生じるが開出、長いところで北でリアの北側約60㎡地点、内で17年間約10㎡、及び東側の18年にもの大部に対り18年にもの大部に対り18年にの大部に対した。18年に対したの大部に対したの大部に対したの大部に対して18年にの大部に対して18年にの大部に対して18年にの大部に対して18年にの大部に対して18年にの大部に対して18年にの大部に対して18年にの大部に対して18年にの大部に対して18年にの大部に対して18年にの大部に対して18年にの大部に対して18年にの大部に対して18年にの大部に対して18年にから、東海の実施に当台、東海の手間の大部を単立の大部を単立の大部を単立の大部を単立の大部を単立の大部を単立の大部を単立の大部を単立の大部を単立の大部を単立の大部を単立の大部を単立の大部を単立の大部を単立の大部を単立の大部を単立の大部とは対した。18年にの大部とは対した。18年にの大部とは対して18年に対した。18年にの大部とはの大部とはの大部とはの大部とはの大部とはの大部とはの大部とはの大部とは	1苦 口	表 5-1(3) 調食結果の概略
(つつき) 計画地内は馬術密技会場及び公園的施設であり、鬼代には桂穀模群(常葉広葉、紫緑 ・ 常湯広葉、混交)が外周高及び死内に広く分布しており、事業前の縁の面積は長安か ・ 事事の実態に伴い、残内の植食樹群を係寒広葉、常緑針葉、常緑が底、発表がの一部に表 ・ 要が生じたが、武震野自然朴や外周部樹林帯は、保全エリアとして樹木保全を行っている。また、乾内についてははらいは広島、ナチュラルアリーナのヒマライスを結ま、サクラドリージュのケマキ等の既存樹水を必及改発たしている。また、宛内の一部の指すといってははらかは広島、大阪の大阪ではりたのではないのではないではない。 事業の実態に当ちっては、胆体区がよりの基本条例(平板17年世円谷区条例第13 号 における緑化基庫をそれぞれの敷地・化エリア、向エリア、向エリア、公和彦エリアで前ちに、は、 エリアで約 78 (410年)、南エリアで約 5.370年、公和家エリアで約 78 (400年)。 とする子定である。 以上のことから、予制結果と同様に、兔内の緑の面積が後前を上回り、先内で機したようできたりメ、サクラ、アジ等を含か高木等の結膜により新たな特性が利田されるとともに 別内に保全される健根静節が維度され。計画地回辺療覚・維持ないると考える。 以上のことから、予制結果と同様に、兔内の緑の面積が後前を上回り、先内で機したよ 内内に保全される健根静節が維度は、長いところで北エリアの北側約60m地点、南東の日影が次の変化の程度 計画は紫物により日影が生じる範囲は、長いところで北エリアの北側約60m地点、ドラの北海、東タコアの西側的、10m 及び東側約30m地点の公園 緑型等には8時間が 対して規制時間を上回る日影は生むない。また、計画地周辺の公園 緑型等には8時間が か90m地点、第コリアの西側が10mとびの東側約30m地点、海側約90m地点、南東のまが生じる歯が生じるをいまり、北海が生じるといまり、大側部の地間による8時間は、大の変形の地域と15 を当時間と200年の タ空日の平均地整面から4 mの高さにおける計画建築物による8時か3 mの時間で12 が次を衛間は、大のととから、予測結果と同様に、冬至日における日影の範囲は最近で的であると考える。 7. 日原電市が生じる大の音が表が表が観音が生じる。 明朗以上の日影は生じない。より、住宅等は存在しない。また、北エリア、 画間以上の日影は生じない。 以上のことから、予測結果と同様に、冬至日における日影の範囲は、東で東の場でもまめ、 の高等な影所を全をと第二とり、17 10mの表では、単位を全を上のより、現所にからではまからの形はとの時により、現在を必ずとの表での子をと考とをを持ている。と考とる。 フェ葉な保護が成皮素の正のな便による地域景観の特性の変化の程度 中変の実施に当たり、成成時からアイレベルで視めをかったりまた。外間総材を帯は、高くを維持する子定でもあ。 以上のことから、下側結果を同様に、5年を全様をしている。本様を中でより、成成部を持ているとないまた。17 10mは表に対して、17 10mに対しが表に対して、17 10mに対しが表に対しまがままりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまり		
事業の実施に伴い、売内の能栽樹料(密集/東京、紫緑料業、紫緑/東、深緑/の一部に生産が生生たが、痰豚野白紫料や肉脂(樹帯) (保全エリアとして樹木保全を行っているまた、苑内についてははらっぱ(坑場・ナチュラルアリーナのとマラヤスギ部・サクラドッサージュのケヤキ等の既存謝木を広久疾存している。また、苑内の一部の樹木は移程(行いつつ、新植樹木を軽植して新最を確保する予定である。事業の実施に当たっては、世田が区みどりの基本条例(平成17 年世田谷区外別 13 号における縁化是年をそれぞれの敷地 (北エリア、南ェリアで約78,400㎡、南にリアで約78,400㎡、南にリアで約78,400㎡、南にリアで約78,400㎡、南にリアで約78,400㎡、南にリアで約78,400㎡、南にリアで約78,400㎡、南にリアで約78,400㎡、南にリアで約78,400㎡、南にリアで約78,400㎡、南にリアで約78,400㎡、南にリアで約78,400㎡、南にリアで約78,400㎡、南にリアで約78,400㎡、南にリアで約78,400㎡、南にリアで約78,400㎡、南にリアで約78,400㎡、東京の正常が後前を上回り、発力で被したシャナの大きでが大きが大きが大きが大きが大きが大きが大きが大きが大きが大きが大きが大きが大きが		計画地内は馬術競技会場及び公園的施設であり、苑内には植栽樹群(落葉広葉、常緑針葉、常緑広葉、混交)が外周部及び苑内に広く分布しており、事業前の緑の面積は85,265m ²
以上のことから、予測結果と同様に、熱内の緑の面積が発前を上回り、焼内で親しまえできたウメ、サクラ、フジ等な含む高木等の植板により高大た緑地が創出されるとともに売れていた。 計画地周辺環境も維持されるとあえる。 1 日影が生じることによる影響に特に配慮すべき施設等における日影となる時刻、時間等の日影が生じるとによる影響に対ける日影となる時刻、時間、第9日をが状況の変化の程度 計画建築物により日影が生じる強囲は、長いところで北エリアの北側約60m地点、東1約90m地点、雇工リアの西側的10m及び東側約50m地点の範囲に及ぶが、日影規制地域、対して規制時間を上回る日影は生じない。また、計画地周辺の公園・緑地等には8時台一部日影が生じる盤所があるが、3時間以上の日影は生じない。以上のことから、予測結果と同様に、日影が生じることによる影響は少ないものと考る。 4 冬至日における日影の範囲、日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度 冬至日の平均地盤面から4mの高さにおける計画建築物による8時か990m地点、順別、7西側約10m及び東側約30m地点の範囲で日影が交が範囲は、長いところで北エリアの北側約60m地点、東側の 10m以の変化の発度 冬至日における日影が生じることがは、3時間以上の日影が生じるとから、予測結果と同様に、冬至日における日影の範囲は限定的であると考える。 ウ 日照阻害が生じる又は改善する住宅戸数及び既存植物計画建築物の出現によって北エリア北側の住宅、東側の馬事公苑新弦巻舎宅、南エリア西側の教育施設、東側のほ宅の一部地域に1~25。以上のことから、予測結果と同様に、日影が生じる範囲は、北エリア北側の行やき並木の一部に1時間程度の日影が生じる。以上のことから、予測結果と同様に、日影が生じる範囲は、北エリア北側の行をき並木の一部に1時間程度の最初によりままでは一部でより、3時間以の日光が生であり、大き変な新弦巻舎宅、南エリア西側の教育施設、東側の住宅の一部地域、北エリアは側の行やき並木の一部であり影響は限定的であると考える。 東窓の実施に当たり、武蔵町自然林や外周部樹林帯については、保全エリアとして樹中を連まである。正門付近では、馬事公苑の主とまった緑の状況は維持され、花と裏地である。以上のことから、予測結果と同様に、馬事公苑のまとまった緑の状況は維持され、花とり野ながかっさく、建築物の占める音のは減少した。ままの未続の表に表した。ままの表のまとまった緑の状況は維持され、花とり報度がからく、建築物の占める音のは減少に、馬事公苑のまとまった緑の状況は維持され、花と野な底がより、外周部がより、大きないかに、馬事公苑の書とまらた緑の水況は維持され、花と野の水脈に、馬事公苑の書ときるたまの大児部様本帯については、保全エリアとして樹り、別の部様と高にさいたり、外周部がからアイレベルで脱り、外周部があらアイレベルで脱り、新の部様と高にさいたり、外周部がらアイレベルで脱りの影響を表定である。正門付近では、馬車公苑の電ときる原とでもあり、外周部があり、大きないので脱り、外周部が上がでから、大きないので見に対しまれば、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mのでは、10mので		事業の実施に伴い、苑内の植栽樹群(落葉広葉、常緑針葉、常緑広葉、混交)の一部に改変が生じたが、武蔵野自然林や外周部樹林帯は、保全エリアとして樹木保全を行っている。また、苑内についてははらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッサージュのケヤキ等の既存樹木を広く残存している。また、苑内の一部の樹木は移植を行いつつ、新植樹木を配植して緑量を確保する予定である。 事業の実施に当たっては、世田谷区みどりの基本条例(平成17年世田谷区条例第13号)における緑化基準をそれぞれの敷地(北エリア、南エリア、公和寮エリア)で満たし、北エリアで約79,410㎡、南エリアで約5,370㎡、公和寮エリアで約860㎡の合計で約85,640㎡
計画建築物により日影が生じる範囲は、長いところで北エリアの北側約60m地点、東約90m地点、南エリアの西側約10m及び東側約30m地底の範囲に及ぶが、日影規制地域が対して規制時間を上回る日影は生じない。また、計画地周辺の公園・緑地等には8時台1一部日影が生じる箇所があるが、2時間以上の日影は生じない。以上のことから、子測結果と同様に、日影が生じることによる影響は少ないものと考える。 イ・冬至日における日影の範囲、日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度冬至日の平均地盤面から4mの高さにおける計画建築物による8時から16時の時間で日影が及ぶ値間は、長いところで北エリアの北側約60m地点、東側約90m地点、南コア西側約10m及び東側約30m地点の範囲である。また、日影規制地域に2時間あるいは、時間以上の日影は生じない、以上のことから、予測結果と同様に、冬至日における日影の範囲は限定的であると考える。 ウ・日照阻害が生じる又は改善する住宅戸数及び既存植物計画建築物の出現によって北エリア北側の母で表別を範囲である。また、北エリア北側の対容施設、東側の住宅の一部地域に1~2時間程度の日影が生じるが、3時間以の日影が生じる範囲は、ほぼ道路の範囲であり、住宅等は存在しない。また、北エリア北側のけやき並木の一部に1時間程度の日影が生じる。以上のことから、予測結果と同様に、日影が生じる範囲は、北エリア北側のけやきが主の一部であり影響は限定のであると考える。 ア・主要な景観の構成要素の改変の程度及びその改変による地域景観の特性の変化の程度事業の実施に当たり、武蔵町自然林や外周部樹林帯については、保全エリアとして樹保全を基本とし、苑内についてははらっぱ広場、ナチュラルアリーナのセマラヤスギ群サクラドレッサージとかるよう既存の大径木を保存し、メインプロムナードでサクラボルのプロムナードではカラボルが大径木を保存し、メインプロムナードでサクラボルのプロムナードで、サクラボルのプロムナードではある。以上のことから、予測結果と同様に、馬事公苑のまとまった緑の状況は維持され、砧く園や東京農業大学との緑の連続性は確保されるものと考える。 イ・代表的な眺望地点においては、No.4地点にて視認できる服舎は従前のインドアアリナより規模が小さく、建築物の占金を割合計は強火した。事業の実施に当たり、武蔵町自然林や別部樹林帯については、保全エリアとして樹保をごろである。正門付近では、馬事公苑の歴史と風格を感じられるよう既存の大径、要素の手はからか、大場の部が本部については、保全エリアとして樹保全のである。正門付近では、馬事公苑の歴史と風格を感じられるよう既存の大径、電子を補継を行っており、外周部からアイレでで視後を選る予定である。正門付近では、馬事公苑の歴史と風格を感じられるよう既存の大径、電子の表の歴史と風格を感じられるよう既存の大径、電子の表の歴史と風格を感じられるよう既存の大径、電子の表の歴史と風格を感じられるより既存の大径、電子の表の記録を開始が表しまれる。15年の大径で表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の	日影	以上のことから、予測結果と同様に、苑内の緑の面積が従前を上回り、苑内で親しまれてきたウメ、サクラ、フジ等を含む高木等の植栽により新たな緑地が創出されるとともに、 苑内に保全される植栽樹群が維持され、計画地周辺環境も維持されると考える。 ア. 日影が生じることによる影響に特に配慮すべき施設等における日影となる時刻、時間数
条至日の平均地盤面から 4m の高さにおける計画建築物による8時から 16 時の時間で日影が及ぶ範囲は、長いところで北ェリアの北側約60m地点、東側約90m地点、南エリア西側約10m及び東側約30m地点の範囲である。また、日影規制地域に2時間あるいは:時間以上の日影は生じない。以上のことから、予測結果と同様に、冬至日における日影の範囲は限定的であると考える。 ウ. 日照阻害が生じる又は改善する住宅戸数及び既存植物計画建築物の出現によって北エリア北側の住宅、東側の馬事公苑新弦巻舎宅、南エリア画側の教育施設、東側の住宅の一部地域に1~2時間程度の日影が生じるが、3時間以の日影が生じる範囲は、ほぼ道路の範囲であり、住宅等は存在しない。また、北エリア北側のけやき並木の一部に1時間程度の日影が生じる範囲は、北エリア北側のけやき並木の一部に1時間程度の日影が生じる範囲は、北エリア北側のけやき立木の一部であり影響は限定的であると考える。 東観 ア・主要な景観の構成要素の改変の程度度びその改変による地域景観の特性の変化の程度事業の実施に当たり、武蔵野自然林や外周部樹林帯については、保全エリアとして樹が保全を基本とし、苑内についてははらっば広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群サクラドレッサージュのケヤキ等の既存樹木を可能な限り残した。外周部樹林帯は、高っを補植する予定であり、外周部からアイレベルで視線を遮る予定である。正門付近では馬事公苑の歴史と風格を感じられるよう既存の大径木を保存している。本建築物の最高高さを18mに抑えた。また、外周部樹林帯は補植を実施中であり、大く変化させない予定である。 以上のことから、予測結果と同様に、馬事公苑の夫とまった緑の状況は維持され、砧く電や東京農業大学との縁の連続性は確保されるものと考える。 イ、代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度代表あな眺望地点がいては、No.4 地点にて視認できる厩舎は従前のインドアアリナより規模が小さく、建築物の占める割合は減少した。事業の実施に当たり、武蔵野自然林や外周部樹林帯については、保全エリアとして樹が保全している。外周部樹林帯は、高木を補植を行つており、外周部からアイレへで視縁を遮る予定である。正門付近では、馬事公苑の歴史と風格を感じられるよう既存の大径と極端を行っており、外周部からアイレへで視縁を適る予算にある。正門付近では、馬事公苑の歴史と風格を感じられるよう既存の大径と極端を行っており、外周部からアイレへで視縁を適る予定である。正門付近では、馬事公苑の歴史と風格を感じられるよう既存の大径と極端を行っており、外周部からアイレへで視縁を適る予定である。正門付近では、馬事公苑の歴史と風格を感じられるよう既存の大径と極端を応じられるよう既存の大径と極端をあるこの計算が生になり、外周部からアイレへで視縁を適る予定である。正門付近では、馬事公苑の歴史と風格を感じられるよう既存の大径に関する場合に対しまればいませんが、まればいればいまればいまればいませんが、まればいまればいまればいまればいまればいまればいまればいまればいまればいまればい		計画建築物により日影が生じる範囲は、長いところで北エリアの北側約60m 地点、東側約90m 地点、南エリアの西側約10m 及び東側約30m 地点の範囲に及ぶが、日影規制地域に対して規制時間を上回る日影は生じない。また、計画地周辺の公園・緑地等には8時台に一部日影が生じる箇所があるが、2時間以上の日影は生じない。以上のことから、予測結果と同様に、日影が生じることによる影響は少ないものと考え
計画建築物の出現によって北エリア北側の住宅、東側の馬事公苑新弦巻舎宅、南エリア西側の教育施設、東側の住宅の一部地域に1~2時間程度の日影が生じるが、3時間以の日影が生じる範囲は、ほぼ道路の範囲であり、住宅等は存在しない。また、北エリア北側のけやき並木の一部に1時間程度の日影が生じる。以上のことから、予測結果と同様に、日影が生じる範囲は、北エリア北側の住宅、東何の馬事公苑新弦巻舎宅、南エリア西側の教育施設、東側の住宅の一部地域、北エリア北側のけやき並木の一部であり影響は限定的であると考える。 ア・主要な景観の構成要素の改変の程度及びその改変による地域景観の特性の変化の程度事業の実施に当たり、武蔵野自然林や外周部樹林帯については、保全エリアとして樹が保全を基本とし、苑内についてははらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群サクラドレッサージュのケヤキ等の既存樹木を可能な限り残した。外周部樹林帯は、高っを補植する予定であり、外周部からアイレベルで視線を遮る予定である。正門付近では馬事公苑の歴史と風格を感じられるよう既存の大径木を保存し、メインプロムナードではサクラ並木のプロムナードとするほか、放牧場の大径木を保存している。本建築物の最高高さを18mに抑えた。また、外周部樹林帯は補植を実施中であり、大く変化させない予定である。以上のことから、予測結果と同様に、馬事公苑のまとまった緑の状況は維持され、砧2園や東京農業大学との緑の連続性は確保されるものと考える。 イ・代表的な眺望地点においては、No.4 地点にて視認できる厩舎は従前のインドアアリナより規模が小さく、建築物の占める割合は減少した。事業の実施に当たり、武蔵野自然林や外周部樹林帯については、保全エリアとして樹ス保全している。外周部樹林帯は、高木を補植を行っており、外周部からアイレベルで視着を遊る予定である。正門付近では、馬事公苑の歴史と風格を感じられるよう既存の大径を		冬至日の平均地盤面から 4m の高さにおける計画建築物による 8 時から 16 時の時間帯で日影が及ぶ範囲は、長いところで北エリアの北側約 60m 地点、東側約 90m 地点、南エリア西側約 10m 及び東側約 30m 地点の範囲である。また、日影規制地域に 2 時間あるいは 3 時間以上の日影は生じない。 以上のことから、予測結果と同様に、冬至日における日影の範囲は限定的であると考え
事業の実施に当たり、武蔵野自然林や外周部樹林帯については、保全エリアとして樹々保全を基本とし、苑内についてははらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群サクラドレッサージュのケヤキ等の既存樹木を可能な限り残した。外周部樹林帯は、高さを補植する予定であり、外周部からアイレベルで視線を遮る予定である。正門付近では馬事公苑の歴史と風格を感じられるよう既存の大径木を保存し、メインプロムナードではサクラ並木のプロムナードとするほか、放牧場の大径木を保存している。本建築物の最高高さを18mに抑えた。また、外周部樹林帯は補植を実施中であり、大きく変化させない予定である。以上のことから、予測結果と同様に、馬事公苑のまとまった緑の状況は維持され、砧屋、東京農業大学との緑の連続性は確保されるものと考える。 イ・代表的な眺望地点においては、No.4 地点にて視認できる厩舎は従前のインドアアリナより規模が小さく、建築物の占める割合は減少した。事業の実施に当たり、武蔵野自然林や外周部樹林帯については、保全エリアとして樹々保全している。外周部樹林帯は、高木を補植を行っており、外周部からアイレベルで視線を遮る予定である。正門付近では、馬事公苑の歴史と風格を感じられるよう既存の大径を		計画建築物の出現によって北エリア北側の住宅、東側の馬事公苑新弦巻舎宅、南エリア西側の教育施設、東側の住宅の一部地域に1~2時間程度の日影が生じるが、3時間以上の日影が生じる範囲は、ほぼ道路の範囲であり、住宅等は存在しない。また、北エリア北側のけやき並木の一部に1時間程度の日影が生じる。以上のことから、予測結果と同様に、日影が生じる範囲は、北エリア北側の住宅、東側の馬事公苑新弦巻舎宅、南エリア西側の教育施設、東側の住宅の一部地域、北エリア北側
代表的な眺望地点においては、No.4 地点にて視認できる厩舎は従前のインドアアリーナより規模が小さく、建築物の占める割合は減少した。 事業の実施に当たり、武蔵野自然林や外周部樹林帯については、保全エリアとして樹っ保全している。外周部樹林帯は、高木を補植を行っており、外周部からアイレベルで視線を遮る予定である。正門付近では、馬事公苑の歴史と風格を感じられるよう既存の大径を	景観	事業の実施に当たり、武蔵野自然林や外周部樹林帯については、保全エリアとして樹木保全を基本とし、苑内についてははらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッサージュのケヤキ等の既存樹木を可能な限り残した。外周部樹林帯は、高木を補植する予定であり、外周部からアイレベルで視線を遮る予定である。正門付近では、馬事公苑の歴史と風格を感じられるよう既存の大径木を保存し、メインプロムナードではサクラ並木のプロムナードとするほか、放牧場の大径木を保存している。本建築物の最高高さを18mに抑えた。また、外周部樹林帯は補植を実施中であり、大きく変化させない予定である。以上のことから、予測結果と同様に、馬事公苑のまとまった緑の状況は維持され、砧公
木を保存している。 本建築物の最高高さを 18m に抑えた。また、外周部樹林帯は補植を実施中であり、大きく変化させない予定である。		代表的な眺望地点においては、No. 4 地点にて視認できる厩舎は従前のインドアアリーナより規模が小さく、建築物の占める割合は減少した。 事業の実施に当たり、武蔵野自然林や外周部樹林帯については、保全エリアとして樹木保全している。外周部樹林帯は、高木を補植を行っており、外周部からアイレベルで視線を遮る予定である。正門付近では、馬事公苑の歴史と風格を感じられるよう既存の大径木を保存し、メインプロムナードではサクラ並木のプロムナードとするほか、放牧場の大径木を保存している。 本建築物の最高高さを 18m に抑えた。また、外周部樹林帯は補植を実施中であり、大き

表 5-1(4) 調査結果の概略

項目	調査結果の概略
項 目 景観 (つづき) 自然との触れ合い活 動の場	調査結果の概略 ウ. 緑根率の変化の程度 計画建築物が予測どおりの位置に視認できる。緑視率は、予測結果と比較して約4.6 ポイント減少した。敷地境界に設置されていた仮囲いの存在により、計画地内の植栽の一部が視認されないが、2 期工事終了後、仮囲いが撤去されるため予測と同様な緑が視認できると考えられる。 ア. 自然との触れ合い活動の場の消滅の有無又は改変の程度 事業の実施に当たり、世田谷区みどりの基本条例(平成17年世田谷区条例第13号)における緑化基準をそれぞれの敷地(北エリア、南エリア、公和寮エリア)で満たし、北エリアで約79,410㎡。南エリアで約5,370㎡、公和寮エリアで約880㎡とする予定である。緑化計画については、苑内で親しまれてきたお花畑やウメ、サクラ、インアリーナやグラスアリーナ周辺のフジ等については、一年を通じて見どころのある広場とする四季の広場として集約し、季節の移ろいや緑の厚み・豊かさを感じられる日本的な空間を演出する予定である。正門から近く利便性の高い位置には、はらっば広場・子ども広場として拡がりのある大きな草地の広場を設けることで、緑空間を整備する。はらっぱ広場では、これまで以上に「せたがや区民まつり」等のイベント等の開催がしやすく、日常的に利用できる緑の憩いの広場空間とし、子ども広場では、見通しの良いゾーンに子ども向け遊具を設置することで子どもの安全性を高めた広場を創出する。また、サクラドレッサージュでは、馬術、乗馬訓練用として利用する馬場の周辺に、木陰をつくるケヤキや移植及び新植によるサクラ等の樹木を配置したことで、馬とサクラの風景を創出する。総合馬術のクロスカントリーコースの一部として利用するナチュラルアリーナでは、既存のヒマラヤスギ群等を生かした木陰や、新たに木陰や緑や銀光、ポットを設置するほか、南側の池には東屋を設置し、水生植物が生育する修景池とする。以上のことから、予測結果と同様に、苑内は新たな自然との触れ合い活動の場として、周辺の自然との触れ合い活動の場とともに利用されるものと考える。
	苑内では散歩や自然観察、休息、ウォーキング等の自然との触れ合い活動が日常的に行われていた。事業の実施により、お花畑や広場、日本庭園等の一部に改変が生じたが、武蔵野自然林や外周部樹林帯は、保全エリアとして樹木保全を基本とし、苑内についてははらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッサージュのケヤキ等の既存樹木が広く残存している。また、苑内の一部の樹木は移植を行いつつ、新植樹木を配植して緑量を確保している。

表 5-1(5) 調査結果の概略

項目	調査結果の概略
歩行者空間の快適性	ア.緑の程度 計画地周辺の鉄道駅からの主要なアクセス経路は、歩道上の街路樹や沿道の樹木により 緑陰が形成されており、緑の程度は事業実施前と同様であった。 また、計画地内については、はらっぱ広場、ナチュラルアリーナ、サクラドレッサージ ユ等の既存樹木を広く残存させ、一部の樹木は移植を行いつつ、新植樹木を配植して緑量 を確保した。正門付近では、馬事公苑の歴史と風格を感じられるよう既存の大径木を保存 し、メインプロムナードではサクラ並木のプロムナードとするほか、放牧場の大径木を保存した。また、はらっぱ広場の大径木の保全、サクラドレッサージュでは木陰をつくるケヤキの保全及び苑内のサクラを移植し、馬とサクラによる風景を形成するほか、池や地形の起伏を活かした広々としたナチュラルアリーナでは、特徴的なヒマラヤスギ群を保全した。今後、2023 年秋までの2期工事において、四季の森広場のほか、はらっぱ広場、子ども広場として大きな草地の広場、ナチュラルアリーナ、サクラドレッサージュを整備する予定である。 以上のことから、予測結果と同様、計画地周辺の鉄道駅からの主要なアクセス経路の緑の量は維持され、苑内の緑量も確保されるものと考える。
	イ.歩行者が感じる快適性の程度 暑さ指数の測定結果は、日向で 25.9~32.4℃、建物影で 27.1~31.1℃であった。予測 結果は、日影のない直射日光下では最大で 32℃、日影下では最低で 28℃であり、フォローアップ調査結果は予測結果と同程度であった。 なお、苑内では緑地広場の整備等が行われており、暑さ対策に効果がある木陰が創出される予定である。
水利用	ア.水の効率的利用への取組・貢献の程度本施設は、2023年秋まで2期工事中であり、再開苑は2023年秋以降であることから、水利用の実績値はまだない。本事業は、馬術競技会場(クロスカントリーを除く)の整備を行うもので、節水の取組みとして、保水性の良い馬場構造を採用した。また、メインオフィスや管理センター等においては節水型便器や擬音装置を設置し、節水対策が行われている。以上のことから、予測結果と同様に、水の効率的な利用が行われるものと考える。
廃棄物	ア. 廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等本施設は、2023 年秋まで2期工事中であり、再開苑は2023 年秋以降であることから、廃棄物の実績値はまだない。施設等の持続的稼働に伴う廃棄物の発生量及び再利用量並びに処理・処分方法等は、廃棄物の種類別の分別回収及び保管場所を設置し、東京都廃棄物条例及び世田谷区清掃・リサイクル条例に基づき適切な処理・処分を行う予定である。なお、分別に当たっては世田谷区の分別方法に従い、古紙、ガラスびん、缶等は、資源として分別回収を行う。以上のことから、予測結果と同様に、廃棄物は適切に処理・処分されるものと考える。
温室効果ガス	ア. 温室効果ガスの排出量及びその削減の程度本施設は、2023 年秋まで2 期工事中であり、再開苑は2023 年秋以降であることから、温室効果ガスの実績値はまだない。本施設では、全館の照明、非常照明・誘導灯に LED 器具を採用し、電光掲示板・表示装置を LED 化した。照明設備には、人感センサ制御を導入し、外灯にはタイマー制御を導入した。空調設備機器は個別パッケージ型、換気設備機器は全熱交換器とする等、高効率機器を導入した。空調設備機器については、各部屋の方位や使用時間を加味し、系統分けして運転することで室外機の運転時間の縮小化を図る。インドアアリーナ、厩舎にはトップライトを設置、屋外便所はハイサイドライトを設置し、自然採光を有効利用することとした。以上のことから、予測と同様に、施設等の持続的稼働に伴い生じる環境への負荷の削減が図られるものと考える。

表 5-1(6) 調査結果の概略

項目	調査結果の概略
エネルギー	調査結果の機略 ア. エネルギーの使用量及びその削減の程度
エイルナー	ア・エネルキーの使用重及いての削減の程度 本施設は、2023 年秋まで 2 期工事中であり、再開苑は 2023 年秋以降であることから、 エネルギーの実績値はまだない。
	本施設では、全館の照明、非常照明・誘導灯に LED 器具を採用し、電光掲示板・表示装置を LED 化した。照明設備には、人感センサ制御を導入し、外灯にはタイマー制御を導入した。
	空調設備機器は個別パッケージ型、換気設備機器は全熱交換器とする等、高効率機器を 導入した。空調設備機器については、各部屋の方位や使用時間を加味し、系統分けして運 転することで室外機の運転時間の縮小化を図る。インドアアリーナ、厩舎にはトップライ トを設置、屋外便所はハイサイドライトを設置し、自然採光を有効利用することとした。 以上のことから、予測と同様に、施設等の持続的稼働に伴い生じる環境への負荷の削減 が図られるものと考える。
安全	ア. 危険物施設等からの安全性の確保の程度 計画地周辺ではガソリンスタンドが分布しており、最も近いガソリンスタンドで計画地 境界から約 150m の距離に位置しているが、危険物施設等については、消防法等の法令等 に基づき適切に維持管理が行われている。また、「東京都地域防災計画」によって危険物 施設等の種類別に監視体制が明確に定められ ている他、計画地の位置する「馬事公苑・東京農業大学一帯」は、避難場所にも指定さ れている。 危険物施設等からの安全性の確保のため、法令等に基づく危険物施設等に係る規制がな される他、関係機関による立入検査等の監視体制が継続されている。 なお、本施設では、非常用発電設備の燃料として軽油を利用しているが、タンクは非常 用発電機に内蔵のタイプとしている。 以上のことから、予測結果と同様に、危険物施設等からの安全性は確保されているもの と考える。
	イ. 移動の安全のためのバリアフリー化の程度 本建築物は、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、高齢者、障害者 等が利用しやすい建築物の整備に関する条例(建築物バリアフリー条例)及び東京都福祉 のまちづくり条例に基づき、施設内の整備を行った。 最寄りの鉄道駅から会場までの歩行者経路については、都の「2020 年に向けた実行プラン」において、「競技会場周辺等の都道のバリアフリー化」の実施、「Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドライン」も踏まえた整備が実施され、歩行者経路の点字ブロック、ガードレールの設置等の移動の安全のためのバリアフリー化の程度は高まっていると考える。 以上のことから、予測結果と同様に施設内の移動の安全性は確保されるとともに、鉄道 駅からの移動経路のバリアフリー化の程度は高まっているものと考える。
	ウ. 電力供給の安定度 東京電力(株)管内における平成25年以降の夏季・冬季の電力供給は、最大需要を上 回っており、安定供給が確保されている。 計画地については、北エリア、南エリアのそれぞれにおいて、6.6kVの1回線受電とし、 メインオフィス、管理センター、事務・JRA職員寮のそれぞれに、非常用発電機を設置し た。
消防・防災	以上のことから、予測結果と同様に、電力供給の安定性は確保されているものと考える。 ア. 耐震性の程度 本建築物は、職員等が常駐するメインオフィス、管理センター、事務・JRA職員寮については、耐震安全性の分類はII類とし、インドアアリーナや厩舎その他の小規模建物は、III分類とし、建物用途に応じた耐震安全性を満足するものとした。 以上のことから、予測結果と同様に、耐震性は確保されているものと考える。
	イ. 防火性の程度 本建築物は、建築基準法、東京都建築安全条例、消防法及び東京都火災予防条例に基づき、耐火建築物及び防火対象物としての基準を満足している。 以上のことから、予測結果と同様に防火性は確保されているものと考える。